

赤城山検定用テキスト

(2018 年 4 月版)



作成者

栗原 久

元 東京福祉大学教育学部 教授

NPO 法人 赤城自然塾 理事

目次

第 1 章. 赤城山の概観 -----	1
1-1. 群馬県と赤城山	
1-2. 赤城山は麓から見た名前	
1-3. 赤城山の名前	
第 2 章. 赤城山の形成過程 -----	4
2-1. 赤城山の地下構造	
2-2. プレートテクトニクス理論との関係	
2-3. 火山活動の歴史	
2-4. 赤城山の噴出物・堆積物	
2-5. 赤城山と富士山	
2-6. 赤城山と榛名山	
2-7. 赤城山の形状	
第 3 章. 赤城山の植物 -----	10
3-1. 樹木	
3-2. ヤドリギ	
3-3. 大洞赤城神社の針葉樹（ウラジロモミ、クロベ）	
3-4. 小鳥ヶ島	
3-5. 覚満淵の湿原	
3-6. ツツジ類	
3-7. 中腹のクロマツ林	
3-8. 赤城山に由来する植物名	
3-9. ザゼンソウ	
3-10. ミズバショウ	
3-11. ササ類	
第 4 章. 赤城山の動物 -----	13
4-1. 哺乳類	
4-2. 鳥類	
4-3. 昆虫	
第 5 章. 赤城山の気象・災害 -----	15
5-1. 年間降水量	
5-2. 大沼、小沼の全面結氷	
5-3. 冬季の降雪とからっ風	
5-4. 雷雲の発生	

- 5-5. 気象観測装置
- 5-6. 気圧・気温
- 5-7. ダイヤモンドダスト・ブロッケン
- 5-8. 気象災害
- 5-9. 地震災害

第 6 章. 赤城神社・仏閣 ----- 17

- 6-1. 赤城神社の神階・社格
- 6-2. 三夜沢赤城神社
- 6-3. 大洞赤城神社（赤城神社元宮）
- 6-4. 二宮赤城神社
- 6-5. 赤城大明神
- 6-6. 櫃石
- 6-7. 宮田の不動堂
- 6-8. 滝澤不動堂
- 6-9. 珊瑚寺
- 6-10. 雲昌寺
- 6-11. 医光寺
- 6-12. 養林寺
- 6-13. 木曾三社神社

第 7 章. 赤城山麓の遺跡・城跡 ----- 22

- 7-1. 旧石器（無土器）時代
- 7-2. 縄文時代
- 7-3. 宇通遺跡
- 7-4. 城跡

第 8 章. 赤城山をめぐる伝説 ----- 27

- 8-1. 赤城山の神と二荒山（日光男体山）の神の争い
- 8-2. 淵名姫と赤城姫
- 8-3. 赤堀道元の娘
- 8-4. 巨人・鬼・天狗・ダイダラボッチ
- 8-5. 洪水
- 8-6. タワラ杉と俵 藤太
- 8-7. 赤城神社の社格について
- 8-8. 徳川埋蔵金
- 8-9. 珊瑚寺の七不思議
- 8-10. 血の池
- 8-11. すずり石
- 8-12. 田島の大石

- 8-13. 鈴ヶ岳の名前の由来
- 8-14. 鍋割山の名前の由来
- 8-15. 荒山の別名（浅間山）
- 8-16. ムカデ鳥居

第 9 章. 赤城山の行事 ----- 32

- 9-1. 山開き祭り
- 9-2. レンゲツツジ祭り
- 9-3. 三夜沢赤城神社例大祭
- 9-4. 大洞赤城神社 夏の例大祭と赤城山夏祭り
- 9-5. 大洞赤城神社 秋の例大祭
- 9-6. あかぎ大沼・白樺マラソン大会
- 9-7. 赤城山ヒルクライム大会
- 9-8. 赤城山雪祭り
- 9-9. 電力中央研究所赤城試験センターの一般公開
- 9-10. 赤城南面千本桜祭り
- 9-11. 赤城山トレイルランニング・レース
- 9-12. 老神温泉・雪ほたる&冬のイルミネーション
- 9-13. 望郷ライン・センチュリーライド

第 10 章. 観光 ----- 34

- 10-1. テーマパーク
- 10-2. ワカサギの穴釣り
- 10-3. ローラースライダー
- 10-4. 日本の 100 選
- 10-5. 観光開発
- 10-6. 温泉
- 10-7. 青木旅館
- 10-8. 猪谷旅館
- 10-9. 赤城公園ビジターセンター
- 10-10. 阿久沢家
- 10-11. 沼田市南郷の曲屋（旧鈴木家）
- 10-12. スキー場
- 10-13. 美術館・博物館
- 11-14. 相澤忠洋記念館
- 11-15. スローシティー

第 11 章. 赤城山の雑学 ----- 39

- 11-1. 鍋割山は犬の顔
- 11-2. 赤城の影牛

- 11-3. 一等三角点本点
- 11-4. 大沼、小沼の正しい読み方
- 11-5. スバル 360 のテスト走行
- 11-6. スキージャンプの日本記録
- 11-7. 赤城山の行政区分
- 11-8. 前橋市富士見町赤城山 1 番地

第 12 章. 文学・芸術 ----- 42

- 12-1. 萩原朔太郎
- 12-2. 与謝野鉄幹・晶子
- 12-3. 幸田露伴
- 12-4. 志賀直哉
- 12-5. 高村光太郎
- 12-6. 深田久弥
- 12-7. 岩澤正作
- 12-8. その他の代表的文人
- 12-9. 文学碑・レリーフ
- 12-10. 演劇

第 13 章. 赤城山の名前の引用 ----- 45

- 13-1. 特急あかぎ（J R 東日本）
- 13-2. あかぎ号（流鉄流山線）
- 13-3. 赤城駅（上毛電気鉄道 上毛線・東武鉄道 桐生線）
- 13-4. 軍艦
- 13-5. 巡視艇・巡視船
- 13-6. 商業船
- 13-7. 赤城型民家
- 13-8. 赤城村
- 13-9. 赤城根村
- 13-10. お酒・食料品など
- 13-11. 道の駅
- 13-12. 力士
- 13-13. AKAGIDAN（群馬のご当地アイドルグループ）
- 13-14. 赤城の輝き（バラ品種）
- 13-15. 超速戦士 G-FIVE
- 13-16. 国民体育大会・身体障害者スポーツ大会
- 13-17. AKAGI

第 14 章. 湖・用水・滝 ----- 50

- 14-1. 湖

- 14-2. 河川
- 14-3. 用水
- 14-4. 滝

第 15 章. 交通・インフラ ----- 54

- 15-1. 自動車通行可能な登山道路
- 15-2. 赤城山への登山バス
- 15-3. 国道 353 号
- 15-4. 関越自動車道
- 15-5. その他の道路
- 15-6. 旧街道
- 15-7. 赤城山山頂の峠
- 15-8. 鉄道路線
- 15-9. JR 東日本送電線
- 15-10. 東群馬変電所
- 15-11. ダム
- 15-12. 水力発電所

第 16 章. 民謡・歌 ----- 61

- 16-1. 民謡
- 16-2. 童謡
- 16-3. 歌謡曲
- 16-4. 浪曲

第 17 章. 赤城山の見え方・赤城山からの展望 ----- 63

- 17-1. 麓から赤城山の見え方
- 17-2. 赤城山からの展望
- 17-3. 距離
- 17-4. 仰角、俯角
- 17-5. 遠望
- 17-6. 黒檜山から赤城のピークの見え方
- 17-7. 地藏岳から赤城のピークの見え方
- 17-8. 大洞赤城神社から赤城のピークの見え方

付録 1. 赤城山地図 ----- 65

付録 2. 赤城山 てくてくまっぷ ----- 66

付録 3. ガイド推奨コース ----- 67

第 1 章. 赤城山の概観

1-1. 群馬県と赤城山

日本列島のほぼ中央に位置する赤城山（あかぎやま）は、標高 1,828m（最高峰は黒檜山：山頂の三等三角点の位置 北緯 36 度 33 分 37 秒、東経 139 度 11 分 36 秒、登録標高は 1827.7m）、底径が約 35km（南北）×約 25km（東西）（分布面積 約 700km²、山体体積 約 100km³）の、山頂にカルデラを持つ大規模な複式成層火山です。赤城山は関東平野の西北端にあり、標高 1,449m の榛名山、標高 1,104m の妙義山とともに上毛三山の 1 つです。山体体積では姉妹山とされる榛名山 約 180km³ より劣りますが、分布面積は群馬県内でもっとも広く、日本の中でも上位（火山島を除くと体積では 21 位）にランクされる火山です。

赤城山は群馬県だけでなく、関東平野一円から望むことができ、深田久弥の百名山にも数えられています。山頂が群馬県または県境にある百名山は 11 座（県内だけなら 4 座：赤城山 1,828m、武尊山 2,158m、至仏山 2,228m、本白根山 2,165m）があります。百名山の中で標高 1 位は富士山で、赤城山の標高は 78 位でそれほど高いわけではありませんが、関東平野に直接対峙していることと、裾野が長いことで、雄大に感じられます。

赤城山が群馬県を代表する山であることは、群馬県内の全小・中学校 540 校（2000 年時点）のうち、校歌の歌詞に赤城山が含まれている割合は約 42% で、榛名山 約 18%、浅間山 約 7%、妙義山 約 6% より、はるかに高くなっています。一般に、山の仰角が 2.1 度以上になると、校歌に含まれる割合が高まります。ちなみに、群馬県庁の 32 階展望室（海拔約 240m）から赤城山（荒山：県庁からの距離は約 19km、黒檜山は 約 22km ですが見えません）を見たときの仰角は約 4.2 度（ $\tan \theta = 0.07227$ ）です。

群馬県内で、赤城山（長男）、榛名山（次男）、妙義山（三男）とする上毛三山に愛着を示す証拠はいくつかあります。代表例が、小学校の運動会では赤城団（赤色）、榛名団（緑色または青色）、妙義団（黄色）にグループ分けすること、また、群馬県内の小・中学校の校歌に、赤城（山）が入っている割合が約 42% からわかります。仰角が 2.1 度以上になると、校歌の 1 番に入る確率が急上昇するそうです。

俳人・金子兜太は、赤城山を「おっとり長男」と例えています。

1-2. 赤城山は麓から見た名前

平野部から眺められる大きな山は昔から信仰の対象となり、山体そのものがご神体と崇められ、山麓から仰ぎ見る山全体に対して名前がつけられました。そして、山頂にある峰々にも名前がつけられました。

赤城山という名前は、麓から眺めた場合の山全体を指しています。山頂付近にあるそれぞれの峰に対しては、形状（荒山、鈴ヶ岳、鍋割山、船ヶ鼻山：ふねがはなやま）、農耕（駒ヶ岳、鍬柄山）、神道や仏教（地蔵岳、薬師岳）、植生あるいは気象（黒檜山、つつじが峰）、人物（長七郎山、朝香嶺）、用途（見晴山）、場所（出張山）などに関係した名前がつけられます。

なお、昭和村では、船ヶ鼻（ふねがはな）山を、単に船ヶ鼻としています。

赤城山を前橋中心市街から見た主な峰々は左から、鈴ヶ岳、鍋割山、荒山、（黒檜山、地蔵岳は見えない）、長七郎山です。伊勢崎・桐生・太田方面からは、鍋割山、荒山、地蔵

岳、長七郎山、黒檜山となり、渋川方面からは、鈴ヶ岳、黒檜山、地藏岳、荒山、鍋割山で、沼田方面からは、黒檜山、地藏岳、鈴ヶ岳、荒山です。

これらのうち、赤城五峰に数えられているのは、黒檜山、地藏岳、荒山、鍋割山、鈴ヶ岳です。これら五峰に駒ヶ岳、長七郎山を加えたのが赤城七峰です。



群馬県庁（前橋市）32F 展望室から見た赤城山



伊勢崎市役所（伊勢崎市今泉町）から見た赤城山

国土地理院発行の2万5千分の1、5万分の1地形図では、「山」は「さん」と読むことが原則となっています。しかし、群馬県民、とりわけ県庁のある前橋市周辺では「あかぎやま」という呼び名に長年親しんできたため、国土地理院の方針に異議を唱え、「あかぎやま」に改めるよう強く申し出ました。国土地理院はこの要求を受け入れ、読み方は「あかぎさん」「あかぎやま」のどちらでもよいとしています。ただ、2万5千分の1地形図では、図幅名は「あかぎさん」と記してあります。

1-3. 赤城山の名前

●くろほのねろ：奈良時代に編集された万葉集（巻14）3431の東歌に「賀美都家野久呂保乃禰呂乃久受葉我多可奈師家児良爾伊夜射可里久母 かみつけの くろほのねろの くずはがた かなしけこらに いやさかりくも」と詠まれた短歌があり、奈良時代までは、赤城山は久呂保乃禰呂（くろほのねろ：くろほの嶺）と呼ばれていました。黒い雷雲が立ち籠める山という意味です。「くずはがた」は、大沼（赤城湖、または石垣沼ともいわれます）

の古い呼び名です。「くろほのねろ」の呼称は、赤城山最高峰の黒檜山に、また、2005 年に桐生市に合併した旧黒保根村に引き継がれました。昭和村は、1958 年 11 月 1 日、久呂保村と糸之瀬村が対等合併して誕生した村です。

黒檜山は後上野志では、千眼山（せんげんやま）と記載されています。

●「赤城」の名前の出所：書物の中に赤城の名前が登場したのは、鎌倉幕府 3 代将軍 源実朝の和歌集（金槐（きんかい）和歌集 647）で、「上野の 勢多の赤城の から社 やまといかに 跡をたれけむ」があります。この和歌は、赤城山ではなく、赤城の社つまり赤城神社を詠んだものです。

赤城山の名前の由来については、昔は赤木山と書いていたように、天然林の植生がミズナラ、モミジ・カエデ類、ダケカンバなどの落葉広葉樹で、全山紅葉で彩られることが、赤城山の由来になっている説も有力です。

また、10 月上旬になると山頂部から紅葉が始まり、下旬には山頂から麓まで山全体が色づくことは、赤城山の神（ムカデ）と二荒山（日光男体山）の神（大蛇）が争い、二荒山の神を応援した猿麻呂が放った矢に当たって傷ついた赤城の神が流した血潮で山全体が真っ赤に染められたという伝説もあります。

なお、沼田市（旧利根村）に伝わる伝説では、赤城山の神が大蛇で、二荒山の神がムカデとしています。

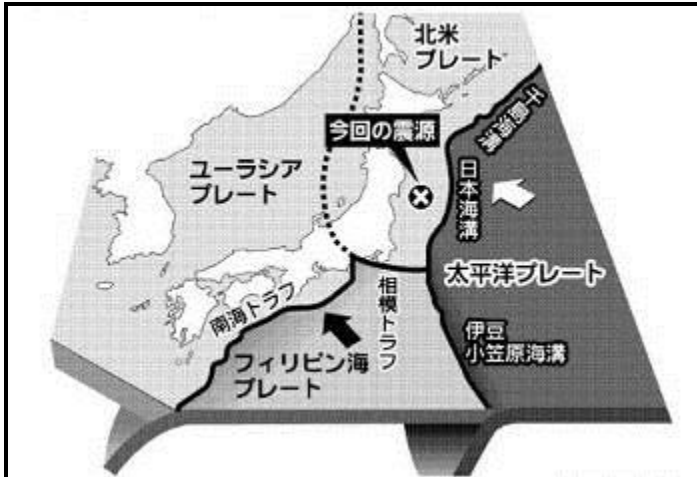
一方、「アカ」は仏教語で仏や貴賓に献上する水を意味している「闍伽」に、「ギ」は囲いや器を意味するという説があり、赤城の語源が「高貴な水の湧くところ」に由来するという説も、捨てがたいものがあります。

アカは「火の神」、ギは「森」あるいは「神社」を意味するという説もあります。

第2章. 赤城山の形成過程

2-1. 赤城山の地下構造

赤城山の基盤は、北東部では海拔 1,200m 付近まで足尾山地を形作っている約 2.5 億年前の古生代に堆積した地層が主で、東南部は、海拔 500m 付近まで新生代第三紀層（1,500 万年前に堆積）があります。つまり、赤城山の東側半分はかなりの上げ底で、火山堆積物が薄く覆っているだけです。一方、西半分の基盤は、海拔約 150m にある第三紀層や第四紀洪積層で、火山堆積物で厚く覆われています。



日本付近のプレートと東日本大震災（2011 年 3 月 11 日）の震源

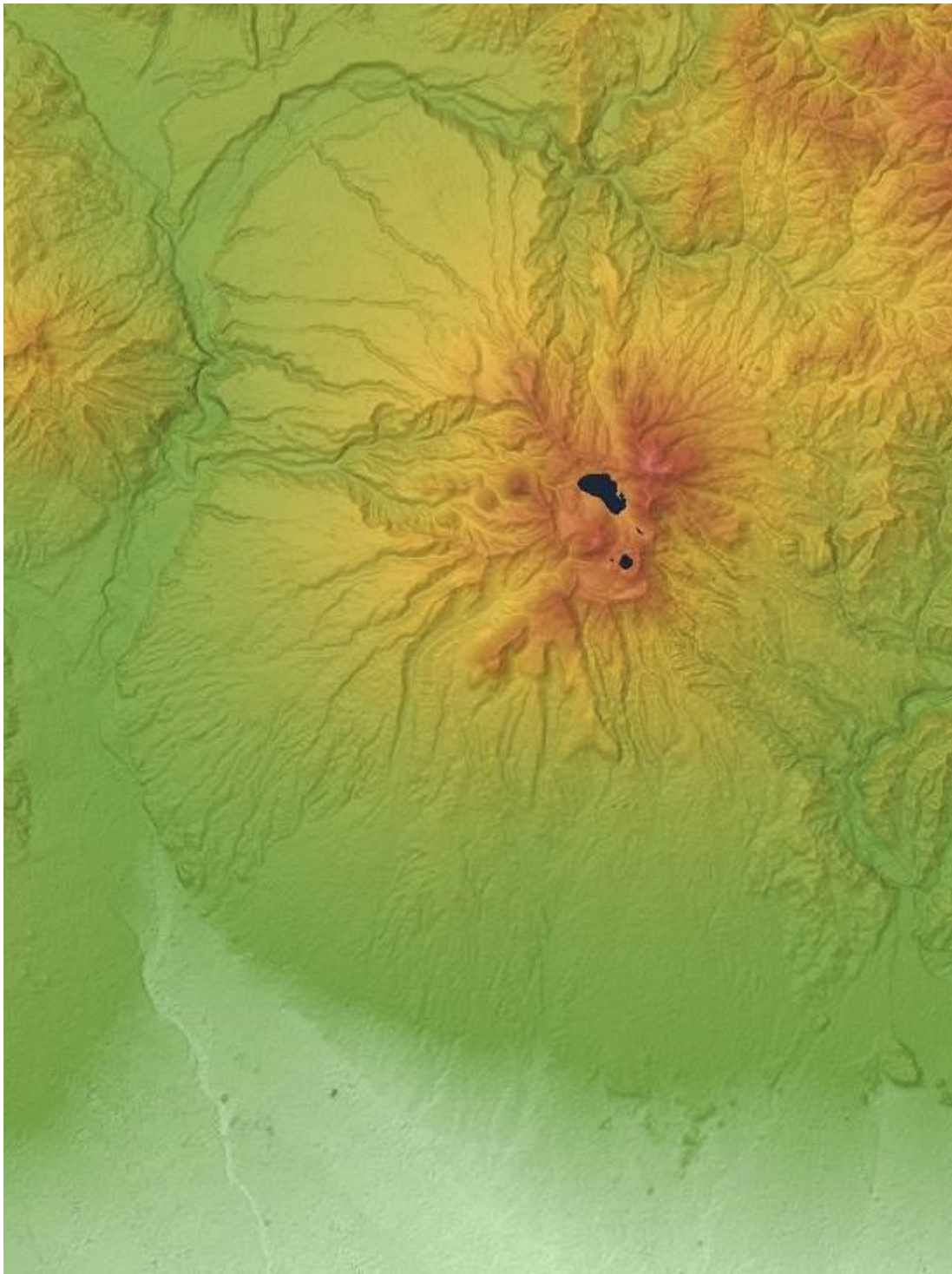
2-2. プレートテクトニクス理論との関係

日本付近には、海洋型の太平洋プレートとフィリピン海プレート、大陸型の北米プレートとユーラシアプレートの 4 枚があります。赤城山は、東日本火山帯に属し、6cm/年のスピードで西に移動している太平洋プレートが北米プレートに衝突して下に沈み込み、地下数 10km～100km でマントル物質が溶解してできたマグマが、プレート内の割れ目を上昇して地下 10km 付近でマグマ溜まりを造り、柏崎－千葉構造帯（約 2,500 万年前の大規模な断層帯）で噴出したものです。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災も、太平洋プレートが北米プレートの下の潜り込む境界で発生しました。

2-3. 火山活動の歴史

火山の定義は、新生代第四紀（260 万年前から現在まで）に、火山活動によって造られた山のことです（第四紀火山）。火成岩でできた山であっても、新生代第三紀以前の火山活動であれば火山とは呼びません。

赤城山周辺の傾斜図を見ると、活動の歴史を読み取ることができます。



赤城山周辺の傾斜図

●主成層火山：約 40 万年前（50 万年前の説もある）、柏崎－千葉構造帯（利根川構造線とも呼ばれたことがある大断層）の割れ目で火山活動が起こり、火山灰・砂、噴石、軽石（一括してスコリアまたはテフラという）などを上空高く吹き上げるブルカノ式の激しい爆発的噴火とそれに続く溶岩の大量噴出、および火山砂・灰のみを噴出する緩やかな噴火活動（タフリング）を数万年にわたって繰り返し、標高約 2,500m の均整のとれた成層火山（古成層火山）に成長しました。

高温の溶岩とスコリアが固着してできた岩石を集塊岩あるいは凝灰角礫岩といいます。

●山体崩壊：約 20 万年前、大噴火が起こって山頂部が吹き飛ばされ、高さが約 1,500m になってしまいました。

このとき発生した岩屑雪崩（赤城橋山岩雪崩）は主に南西側を流れ下って裾野を延長するとともに、大量の土石が利根川まで到達して堆積し、橋山、箱田山、十二山などの流れ山（孤立丘群）を造りました。

利根川に達した岩塊の一部は、約 2.4 万年前の浅間山の大噴火（カルデラの形成）で発生した土石流によって、下流に押し流されました。

約 15 万前（13 万年前との説もある）には、山頂部の崩壊より規模はやや小さいものの南斜面でも山体崩壊があり、この時発生した岩屑雪崩（赤城石山岩雪崩）も、南側に多数の孤立丘群を造りました。代表的な孤立丘群が、伊勢崎市の華蔵寺（けぞうじ）公園や権現山（伊勢崎市豊城町）の小丘です。赤城山からもっとも遠方にある流れ山は、権現山からさらに 3km 南にあり、山頂から約 25km 離れたお寺山（伊勢崎市境伊与久町）です。

●溶岩の噴出：約 15 万年前から再び激しい火山活動が始まり、火口から爆発的に巨大な噴煙柱を上空高く吹き上げるプリニー式噴火で小型成層火山の形成に続いて、火口からやや粘り気のある輝石安山岩質の溶岩が山頂東縁で噴出して黒檜山と駒ヶ岳を造り、標高は現在とほぼ同じ約 1,800m になりました。花見が原や北斜面にある船ヶ鼻（ふねがはな）山（1,466m）も、この活動で流出した溶岩が冷え固まったものです。

●棚下火砕流：西側面でも大規模な活動が始まり、噴出した大量の軽石は北側に堆積しました（追貝軽石層）。その後、約 12 万年前に大噴火が起こり、大量の岩塊や軽石は北西に流れ下りました（棚下火砕流）。このときに造られた凹地を、深山カルデラと呼ぶことがあります。噴出物は渋川市赤城町棚下付近で子持山に遮られて堆積し、利根川を堰き止めて深さ約 100m、面積 50km²を超える大きな天然ダム湖（古沼田湖）を造りました。

棚下火砕流の軽石堆積物は高温のため、内部が溶けて溶結凝灰岩となり、その堆積層は高さ約 100m の白色の崖として残っています。

赤城山の堆積層を利根川や片品川が浸食し、そのスピードには緩急があったため、利根川や片品川には数段の見事な河岸段丘が形成されました。河岸段丘は英語でテラスといい、沼田市は市庁舎を移転する「グリーンベル 21」（下之町）の新しい愛称を、「TERRACE 沼田（テラスぬまた）」に決めました。

●側火山の形成：約 7.5 万年前には小黒檜山、荒山と鍋割山といった、溶岩ドームの側火山ができ、西側面にも、小さな溶岩ドームが多数できました。

鍋割山の山頂では小噴火があり、スプーンで削ったような小さな凹地を作りました。

●山頂カルデラの形成：約 4.5 万年前に山頂部で活動が活発になり、大噴火によって大量の軽石を噴出し（湯の口軽石層）、その後、陥没して山頂カルデラ（東西約 2.5km×南北約 4km）を形成しました。この活動で発生した火砕流（大胡火砕流）は南側に流れ下り、

先端は伊勢崎市北部まで到達して堆積しました。

山頂カルデラの外輪山は、駒ヶ岳西斜面の小突起、黒檜山中腹の猫岩、陣笠山、薬師岳、出張山、鋤柄（くわがら）山、姥子（うばこ）山、前浅間山、ツツジガ峯などとして残っています。

山頂カルデラは、沼尾川、赤城白川、粕川の3本で切られ、小沼火山の出現で、南東部が失われています。

●中央火口丘の形成：約3.2万年前に再び山頂カルデラ内で噴火が起こり、噴出した軽石や火山灰は偏西風に乗って東側に流れ、栃木県鹿沼市付近で約1m、茨城県の太平洋沿岸でも20～30cm堆積しました。小沼火山の形成時に噴出した軽石が栃木県鹿沼市付近に堆積し風化したものが、園芸用に使われている鹿沼土です。続いてデイサイトや角閃石安山岩からなる粘り気の強い溶岩が火口から噴出し、溶岩ドームの中央火口丘（地蔵岳、見晴山、小沼火山）を造りました。ほぼ同時代に、深山カルデラ内でも鈴ヶ岳（1,565m）、矢筈山、コフタ山、キズ山などの溶岩ドームができました。

山頂カルデラにあった大きな湖は、中央火口丘の出現によって大沼と覚満淵を合わせた古大沼湖、新坂平湖、オトギノ森湖の3つに分断されました。

現在の大沼は山頂カルデラ内のカルデラ湖（湖面標高1,345m）ということになり、その大きさは、面積88万m²、周囲約4.5km、最大水深約16.5mです（水深は15～19mの範囲で諸説あり）。

●火山活動の末期：約2.7万年前、小沼火山の山頂で軽石や火山灰の噴出だけで溶岩噴出を伴わないマグマ噴火（タフリング）が起こり、そのとき形成された直径約1kmの噴火口には水がたまって小沼（標高1,470m）になりました。血の池も、同時期に小噴火した火口跡です。

地蔵岳西面の地獄谷も末期の水蒸気噴火の跡で、これによって地蔵岳西面と荒山北面が一部崩壊しました。

●現在の状態：活火山とは、現在活動中または過去約1万年以内に火山活動が確認された山と定義され、現在、日本では111の山が指定されています。

鎌倉時代に書かれた史書の『吾妻鑑（吾妻鏡、東鑑と記載されることもある）』の建長3年（1251年）4月26日の条に、「去る19日（新暦では5月11日）に『赤木嶽焼』」の記述があります。気象庁もこの記述を採用して、赤城山は13世紀に噴火した実績を持つ活火山と認定しています。

現在は、噴気・硫気孔はなく、火山性地震・火山性微動も全く記録されません。赤城山周辺では、南面の標高約1,000mにある赤城温泉（炭酸水素塩泉、湯温44℃）、また1920年頃まで地獄谷の爆裂火口跡（一杯清水バス停付近）に地獄谷温泉があったことを除くと（今でも、鉄分を含んだ水がわき出ています）、火山性の高温泉（泉温が25℃以上）はありません。

しかし、地蔵岳や小沼火山周辺ではマグマの熱が残っており、地下水の供給がある場所では温泉が出る可能性があります。

2-4. 赤城山の噴出物・堆積物

●溶岩：初期に玄武岩質溶岩の噴出があり、その後は安山岩（複輝石安山岩、輝石安山岩、角閃石安山岩へと移行）を噴出する活動が大部分で、末期の活動ではデイサイト質溶岩が噴出しました。

赤城山頂の岩石を注意深く観察すると、暗灰色、灰色、明灰色と、大きく3種類あることが分かります。それぞれ複輝石安山岩、輝石安山岩、角閃石安山岩で、この順に噴出しました。

さらに、角閃石安山岩は、空洞のないものと、空洞のあるもの（軽石）に分けられます。

●テフラ：小沼火山にはテフラ（火山灰、火山屑、軽石などの火山噴出物）が認められます。テフラを噴出する噴火活動をタフリングといいます。

●溶岩流：溶岩流は東斜面（花見ヶ原）、南斜面（忠治温泉付近）、北斜面（船ヶ鼻山）に見られ、末端が急傾斜になっており、かなり粘りけがあったことがうかがえます。

●火砕流堆積層：火口から噴出した火山ガス、火山灰や軽石が高温のまま高速で斜面を流れ下って堆積する火砕流堆積層は、渋川市赤城町、前橋市大胡地区、桐生市黒保根町で見られます。

●岩（土石）雪崩堆積層：火山は、噴火や地震をきっかけに、大規模な山体崩壊が起こりやすい特性があり、赤城山では西山麓や南山麓に、多数の孤立丘（流れ山）群を造りました。すでに述べたように、赤城山から最遠の流れ山は、伊勢崎市境伊与久町の「お寺山」です。

●扇状地堆積層：大雨の時には大量の水が流れて、山体を侵食して深い谷を作り、麓に土砂を堆積して山麓扇状地を作ります。赤城山南面の裾野が長いのは、関東平野に向かって赤城白川、荒砥川、粕川など比較的大きな川が流れており、末端の標高が約45mと低く山麓扇状地が発達しているためです。一方、東面で裾野が短いのは、地下に足尾山地の地層が約1,000mまであり、上げ底で噴出物が薄く覆っているためです。



赤城山頂でみられる溶岩・軽石

2-5. 赤城山と富士山

「裾野は長し赤城山」と上毛カルタで詠まれているように、その長さは富士山に次いで第2位といわれています。裾野の曲線は、電柱の間の電線が垂れ下がったような懸垂曲線 ($y = a (e^x + e^{-x}) \div 2$) の美しいパターンを描いています。しかし、富士山と赤城山の裾野の形成過程は異なっています。

富士山の裾野は玄武岩質の溶岩が流れてできたもので、山頂に噴火口があってカルデラはありません。側火山は、割れ目噴火を伴う大規模なものは大量の溶岩を流出させて青木ヶ原のような地形を作り、小規模なものはスコリア丘を作りました。

一方、赤城山の溶岩は安山岩質で粘性が高いため、溶岩流は山頂周辺に限られています。側火山は、大部分が噴出口から盛り上がった溶岩ドームです。裾野は火山噴出物が直接堆積した部分と、赤城山から流れ出す赤城白川、竜の口川、荒砥川、粕川などの小河川が造った山麓扇状地部分からなります。

赤城山の裾野が最も発達しているのは関東平野に面した南面で、末端は伊勢崎市中心部～東部まで達し、その長さは約25kmあります。確認されている離れ山でもっとも南にあるのは、伊勢崎市境伊与久町の「お寺山」です。

2-6. 赤城山と榛名山

両火山は、形成時期、形成過程がよく似た、山頂にカルデラを持つ複式成層火山です。

榛名山の最高峰は掃部ヶ岳（かもんがたけ）(1,449m)、面積は400km² (28km×20km)で、赤城山の標高(1,828m)より低く、また赤城山の面積(700km² : 35km×22km)よりも小さいのですが、体積は180km³で、赤城山の1.8倍です。榛名山は3重のカルデラと中央火口丘（榛名富士）を持つ4重式の複式成層火山で、側火山は溶岩ドームとスコリア丘の両方があります。

2-7. 赤城山の形状

巨大な成層火山は、山頂に主要火口がありカルデラを持たない単式（富士山、羊蹄山）と、山頂部に小型成層火山が多数あるもの（八甲田山、霧島連山など）、山頂にカルデラを持つ複式火山で中央火口丘が小型成層火山のもの（浅間山、阿蘇山など）、山頂カルデラ内に溶岩ドームの中央火口丘があるもの（榛名山、箱根山など）に分類されます。

赤城山は、榛名山や箱根山と似た、山頂カルデラ内に溶岩ドームの中央火口丘がある複式火山に分類されます。

第 3 章． 赤城山の植物

3-1. 樹木

山頂部および山麓で標高 1,000m 以上の植生は、落葉広葉樹のミズナラの自然林が主で、その他に、ダケカンバ、モミジ・カエデ類が多くあります。

山頂のミズナラには樹齢が 200 年を超えるものがあります。特に、前橋市少年自然の家の北側にあるミズナラ巨径木は、大人 2 人が入れる洞を持っています。

山頂に白樺純林地帯の案内がありますが、実際は多くがダケカンバです。樹皮は、シラカンバは白く、ダケカンバはややオレンジがかった白色です。この地域のシラカンバは人工的に植えたもので、ダケカンバは自然に生えたものです。

箕輪地区にはクリの巨径木があり、最大の木は姫百合駐車場近くにあって赤城栗太郎の愛称で呼ばれています。

3-2. ヤドリギ

赤城白樺ラインを登っていくと、地獄谷手前のミズナラ巨径木にたくさんのヤドリギが寄生しています。ヤドリギは常緑樹で、その実を食べた渡り鳥のヒレンジャク・キレンジャクが樹上で糞をしたため発芽したものです。ヤドリギの成長は非常に遅いため、樹齢の長いミズナラの大木だけに寄生しているのが見られるのです。

北欧では、ヤドリギの下で男女が愛を語ると成就するとの伝説があります。



ミズナラ巨径木



ミズナラに寄生するヤドリギ

3-3. 大洞赤城神社の針葉樹（ウラジロモミ、クロベ）

旧赤城神社境内には、ウラジロモミやクロベの巨径木があります。平地にある神社の境内には、神の降臨・昇天のためにスギを植えることが多いのですが、赤城山頂では冬季の寒冷のためスギが育たず、ウラジロモミやクロベを植えたと考えられます。

3-4. 小鳥ヶ島

小鳥ヶ島にも針葉樹林があります。小鳥ヶ島は、1947 年のカスリーン台風による山崩れのため陸続きになりましたが、かつては湖岸と離れていたため。特殊な極相林が形成されたのです。

大洞赤城神社の移転、土産店の開業などで多くの針葉樹が切られたのは残念です。

3-5. 覚満淵の湿原

大沼の南東、駒ヶ岳と小地蔵に囲まれたところに覚満淵があります。覚満淵の名前は、平安時代、この地で比叡山延暦寺の高僧・覚満が法会を行ったという、南北朝時代に編まれた「神道集」の記載に由来しています。

覚満淵の北側は、尾瀬ヶ原のような雨水だけで涵養される高層湿原で、小尾瀬とも呼ばれ、ミズゴケなどの植物が低温のため分解されずに堆積し、高層湿原を形成する途中にあります。池の北側には厚さ数 m の泥炭層が堆積しています。

湿原内にはニッコウキスゲ、モウセンゴケをはじめとする湿原特有の様々な植物がみられます。モウセンゴケは食虫植物で、覚満淵が栄養分に乏しい土地であることを示しています。高木では、ズミやマユミがあります。

かつて覚満淵はニッコウキスゲの群落がありましたが、ミヤコザサ・ニッコウザサの繁茂やシカの食害で数が激減しました。シカ侵入防止ネットの設置、ササの刈り取りなどで、ニッコウキスゲを初めとする植生の回復が図られています。



鳥居峠から見た覚満淵の湿原（後方は大沼と五輪尾根：陣笠山・薬師岳・出張山）

3-6. ツツジ類

赤城山にはツツジ類が豊富で、群落と地質および植生と密接に関係しています。

●レンゲツツジ：巨径木のない、日照のよい場所（新坂平、覚満淵、小沼周辺、荒山高原など）に群落があり、6月上旬に開花します。新坂平は2015年まで牧場（白樺牧場）として利用されていましたが、覚満淵、小沼周辺もかつては牧場でした。白樺牧場は2018年より、ヒツジの飼育が予定されています。

●アカヤシオ：赤城山では5月中旬に最初に開花するツツジで、日照のよい溶岩地帯（鳥居峠の東斜面、銚子の伽藍周辺など）に群落があります。アカヤシロは、アカギツツジの愛称でも呼ばれています。

●トウゴクミツバツツジ：溶岩地帯で日陰の場所（大沼東岸、長七郎山中など）にあります。

●シロヤシオ：葉が五葉なのでゴヨウツツジの別名があり、スコリアが堆積した日陰の場所（長七郎山北麓）に群落があります。

さらに、サラサドウダン、コメツツジ、ヤマツツジなどが各所でみられ、特に、三夜沢赤城神社参道のヤマツツジの並木は見事です。

3-7. 中腹のクロマツ林

赤城山の中腹には広範囲にわたってクロマツ林が広がっています。クロマツは群馬県の県木に指定されていますが、本来は海岸ややせた土地で真っ先に自生する常緑巨木で、内陸部ではクロマツの自然林はありません。赤城山のクロマツは、第二次世界大戦後、旧富士見村民が協力して植えたのです。

1961年、県道前橋－赤城線（県道4号線：赤城白樺ライン）沿いの標高500mの地（前橋市富士見町赤城山大河原）で開催された第2回全国植樹祭でも、クロマツが植えられました。

しかし、マツノザイセンチュウ（マツクイムシ）によるとされる松枯れ被害が拡大し、南麓の松林はほぼ全滅してしまい、現在、植生の回復が図られています。

3-8. 赤城山に由来する植物名

バラの品種で赤城の輝き、アカギキンポウゲ、ナベワリゴケがあります。

箕輪の「くりの広場」にあるクリ巨径木は、赤城栗太郎の愛称で呼ばれています。

3-9. ザゼンソウ

国道353号線 前橋市富士見町石井の信号「石井」を北上した、沼の窪市有林内にザゼンソウの群落があり、2月に開花が始まり、早春の喜びを告げます。

3-10. ミズバショウ

赤城山には、元もとミズバショウはありませんでした。しかし、移植したものとして、山頂域では大沼西岸、南麓では嶺公園（前橋市嶺町）、天神山自然公園（前橋市市之関町・鼻毛石町）にあります

3-11. ササ類

赤城山の立地位置から、表日本と裏日本の植生が混在しています。

その典型例がササで、黒檜山～薬師岳、出張山の稜線から南は背の低いミヤコザサ（一部ニッコウザサ）が主ですが、それより北面ではチシマザサが主です。

ちなみに、チシマザサは豪雪地域では積雪のため根本が曲がり、根曲竹（ネマガリタケ）と呼ばれ、そのタケノコは食用になります。

第 4 章． 赤城山の動物

4-1. 哺乳類

●ニホンジカ：1980 年代以降、足尾山地で繁殖しているシカが食料を求めて移動してきたため、標高 400m 以上の地点でときどき見かけるようになりました。赤城山山頂域のシカの頭数は約 500 頭、周辺を含めると 1,000 頭以上と推定され、ニッコウキスゲが食べられて激減したり、リョウブ、サラサドウダン、シロヤシオなどの樹皮が食べられて枯れたりといった被害が出ています。

●ツキノワグマ：赤城山全山にわたってツキノワグマが生息しています。赤城山頂では被害の報告はありませんが、注意が必要です。オトギノ森には、ミズナラの樹上にクマ棚がみられます。

●ニホンカモシカ：数は少ないものの、生息しています。カモシカは、シカとっていますが、ウシ科（偶蹄目）の動物です。

●その他：山麓にはホンドタヌキ、ニホンイノシシがかなりの頭数います。

今のところ赤城山周辺でニホンサルが生息は確認されていません。しかし、北東の片品村や、赤城山から 10 数 km しかない沼田市利根町大楊・追貝・穴原、桐生市黒保根町などではニホンサルが出没しています。

夜行性なので見られる機会あまりありませんが、ホンドギツネ、ホンドテン、ニホンノウサギ、ニホンリスなどが生息しています。積雪時は、足跡をしばしば見かけます。

松林では、松ぼっくりの実をニホンリスが食べた跡が、エビフライのようになって落ちています。

4-2. 鳥類

●ヒレンジャク・キレンジャク：赤城山でみられる美しい鳥はヒレンジャクで、渡り鳥ですが、その通過位置は、ヤドリギのある場所と一致しています。その理由は、ヒレンジャクがヤドリギの実を食べ、消化されない果実を含む粘り気のある糞を、ミズナラの樹上でするからです。

●ホトトギス：山頂の森林を歩いていると、「キョッキョッキョッキョ・・・」とけたたましい、ホトトギスの鳴き声が聞こえます。

●トビ：赤城山でもっとも目にする鳥で、南面～西面の海拔 400～500m 付近に多数生息しています。午後になると上昇気流に乗って、何十羽ものトビが旋回する鳥柱がしばしば観られます。鳥柱のなかにしばしばカラスが紛れ込み、トビを追いつくユーモラスな様子を見ることがあります。

●ウグイス：鳴き声で鳥が分かるのはウグイスです。赤城山中では、6月頃から、姿は見えなくても、ホーホケキョという鳴き声を聞かないときはほとんどありません。ウグイスのオスが縄張りを主張するときは「ケキョケキョケキョケキョ・・・」と、いわゆるウグイスの谷渡りと呼ばれる泣き声を発します。

4-3. 昆虫

●ヒメギフチョウ：赤城山で特筆すべき昆虫はヒメギフチョウ（アゲハチョウ科）で、関東地方では赤城山が唯一の生息地で、群馬県の天然記念物に指定され、赤城姫とも呼ばれています。赤城山でヒメギフチョウが観察できるのは、渋川市赤城町のモロコシ山付近です。

ヒメギフチョウの幼虫が食す植物はウスバサイシンで、成虫はカタクリやスミレ類の花の蜜を食します。

第5章. 赤城山の気象・災害

5-1. 年間降水量

赤城山の気候は基本的には表日本型ですが、関東平野に面している南面では霧が発生しやすい傾向があります。

赤城山頂の年間降水量は約 1,500mm で、大沼への年間流入量は約 1,000 万トンになり、東京ドーム（124 万 m³）の体積の約 8 倍です。

また、赤城山全体の年間降水量は約 7 億トンで、東京ドームの約 560 倍です。

5-2. 大沼、小沼の全面結氷

大沼、小沼とも冬季は全面結氷し、氷の厚さは 50cm を超えることがあります。1月上旬から3月末まで、大沼ではワカサギの穴釣りで賑わいます。

解氷は4月中旬ですが、氷が六角形の針状になるアイスクャンドルが見られます。

5-3. 冬季の降雪とからっ風

大規模な寒波がシベリアからやってくると赤城山でも雪が降り、最大積雪は1～1.5mになります。赤城山の初冠雪は、立秋後最初に、前橋地方気象台（前橋市大手町三丁目）から山頂の雪が見えたときです。

赤城山で雪あるいは霧氷となって水分を完全に吐き出した季節風は、乾燥した空気となって平野部に吹き下ります。これが上州（群馬）名物のからっ風で、赤城嵐（おろし）とも呼ばれています。渋川市赤城町の伝説では、赤城山から空っ風が吹くのは、鬼が相撲を取りながらおならをしているのだそうです。

5-4. 雷雲の発生

夏季は南東の季節風が赤城山にぶつかって斜面を上昇することに加えて、山腹が熱せられることで強い上昇気流が起これ、大規模な積乱雲（雷雲）が発生します。

赤城山で発生した積乱雲による雷は赤城雷と呼ばれ、桐生市付近から栃木県南部に雨を降らせます。

5-5. 気象観測装置

赤城山の地蔵岳には、日本で最初にロボット雨量計が設置されました。この観測装置の設置は、気象庁測器課長の藤原寛人（ペンネーム：新田次郎）が考えたものです。当初は長七郎山が候補でしたが、現地調査の際、濃霧の中でコンパスが狂ってしまったため、設置を断念したそうです。ロボット雨量計は、日本各地に約 1,300 個所に設置されているアメダスに引き継がれています。なお、藤原寛人は、富士山レーダーの設置にも携わっています。

現在、赤城山では、地蔵岳山頂に国土交通省の気象（雨量）観測用レーダー、八丁峠に光化学スモッグ観測装置が置かれています。

5-6. 気圧・気温

赤城山頂（黒檜山：1,828m）の気圧は、平地（前橋：120m）の約 83%（830hPa）、気温は 100m 上昇するごとに約 0.6℃下がるので、約 10℃低くなります。大洞（1,350m）では、気圧は約 880hPa で、気温は前橋より約 7℃低くなります。

5-7. ダイヤモンドダスト・ブロッケン

冬季は気温が氷点下 10℃以下となり、風が弱いときは水蒸気が凍ってダイヤモンドダストや、それに太陽光が当たって光る太陽柱が見られます。

一方、尾根上で霧の反対側から太陽光が射す場合、自分の影が霧に映った自分の影の周りを虹が取り囲むブロッケンが見られます。

5-8. 気象災害

赤城山で起こった気象災害で大きなものは、1947 年 9 月に襲来したカスリーン台風がもたらした豪雨によるものです。このときには、黒檜山中腹の土砂崩れで小鳥ヶ島が陸続きになり、赤城白川では土石流が発生し、富士見町では多くの被害がでました。沼尾川が流れる渋川市赤城町深山、また南麓の荒砥川流域の前橋市大胡地区でも大規模な土石流の発生があり、大きな被害がでました。

5-9. 地震災害

818（弘仁 8）年、関東一円をおそった弘仁地震（震源地は埼玉県北西部）では、赤城山南面で大規模な土砂崩れが発生しました。また、2004 年の平成 16 年新潟中越地震では赤城山西麓で、2011 年 3 月の東日本大震災でも、赤城山山麓で建物の被害が比較的多く見られました。

これら赤城山山麓で被害が大きかったのは、地下に柏崎―千葉断層帯があることと、火山堆積物のため地層が安定していないためです。

第 6 章． 赤城神社・仏閣

6-1. 赤城神社の神階・社格

平安時代に編纂された『延喜式神名帳』では、赤城神社は上毛野国（かみつけのくに：群馬県の古式名）の二宮（一宮は富岡市の貫前神社）となっています。

赤城神社（赤城神）の神階は、839（承和 6）年 6 月の『続日本後記』では従五位下、867（貞観 9）年 6 月の『日本三大実録』では正五位下、同 12 月では正五位上、874（貞観 16）年 3 月では従四位下でした。880（元慶 4）年の『日本三大実録』では「赤城沼神」が従四位上でした。赤城明神社は、『延喜式神名帳』（10 世紀）および 1028（長元元）年の『上野國交代実録帳』では正一位となっています。

1871（明治 4）年 5 月の太政官布告により近代社格が制定されたとき、二宮・三夜沢・大洞赤城神社はいずれも郷社でしたが、その後、三夜沢赤城神社は県社に昇格しました。さらに、昭和時代に入って三夜沢赤城神社が「赤城大明神」を「赤城大神」として、祭神に加えて祀り始めました。

1944（昭和 19）年、二宮・三夜沢・大洞赤城神社を併せて、国幣中社（官幣中社）に昇格内示がありましたが、戦中の混乱で実現しませんでした。

三夜沢赤城神社の歴史について研究した人は尾崎喜左雄で、また、豊城入彦命を赤城神社の祭神とする三夜沢赤城神社本社説を記す『太神宮鎮座本記』の編纂に影響のあった人物は高山彦九郎です。

6-2. 三夜沢赤城神社

前橋市三夜沢町に鎮座し、白木の神明型鳥居をくぐって境内に入ると、右手に神池と、その辺に神代文字の碑があります。

社殿は神明造様式で、中門前には、俵藤太（藤原秀郷）が献木したと伝えられる俵杉が 3 本聳えています。三夜沢赤城神社の末社は、群馬県、埼玉県、栃木県、茨城県、新潟県、福島県、他に分布し、その数は約 200 社（最大時は約 330 社）あり、農耕の氏神として信仰されてきました。

国道 353 号三夜沢交差点からの参道は、クロマツ・アカマツとヤマツツジの並木が続き、「美しい日本の歴史的風土準 100 選」に選ばれています。途中には中門・鳥居、惣門があります。

晴れて空気が透明のときは、鳥居から南方向に約 400m 続く参道の先には、関東山地の上に富士山が望めます。



三夜沢赤城神社

6-3. 大洞赤城神社（赤城神社元宮）

赤城山頂大沼の小鳥ヶ島に鎮座し、大洞（あるいは赤城神社元宮）の名で親しまれています。大洞赤城神社は、小沼端の豊受神社、小鳥ヶ島の厳島神社、黒檜山頂の高於神神社をはじめ、赤城山内の各峰神社を合祀して、現在に至っています。

小鳥ヶ島に鎮座する現在の朱塗りの社殿は、大沼南畔にあった約 350 年前に建てられて社殿が老朽化したことと、東武鉄道が境内近くでホテル建設を計画したため、1970（昭和 45）年に移転されたものです。湖畔から続く赤い橋は、啄木鳥（きつつき）橋です。

大洞の名前は、大同元年（806 年）、「神庫山（ほくらやま：地蔵岳）の中腹より大沼の畔に社殿を建て替えた」という『神道集』の記載に由来します。なお、平安時代の始まりは、大同年間からです。

大洞赤城神社の初代神官は猪谷米雄で、その長男の晴雄は、赤城神社の直ぐ南で猪谷旅館を開業しました。

前橋市富士見町小暮にある、明神型の大洞赤城神社一の鳥居は、1965（昭和 40）年に建て替えられたもので、高さ 21.3m は、建設当時は日本一でした。懸額『赤城山』は、江戸時代の書家 角田無幻の書を模したものです。現在の懸額は 2 代目で、初代の懸額は山頂の赤城公園ビジターセンターに展示されています。



旧大洞赤城神社（左）と現在の赤城神社（右）

6-4. 二宮赤城神社

前橋市二之宮町に二宮赤城神社があり、この地域は、崇神天皇の第一皇子の豊城入彦命の末裔である上毛野氏の支配地域の中心であったと考えられており、西大室町には 3 基の大規模な前方後円墳があります。境内の構造を見ると、土塁、堀で囲まれ、横矢掛かりがあるので、中世の城郭を神社の敷地に転用した可能性があります。

さらに、近くには、磐座信仰に始まり、二宮赤城神社の発祥地と考えられる産泰神社が、孤立丘（流れ山）の上にあります。



二之宮赤城神社

6-5. 赤城大明神

『神道集』（文和・延文年間：1352～1361 年）に記述がある「赤城大明神」縁起では、信仰の対象となっていたのは、大沼（千手観音）、小沼・小地藏岳（虚空蔵菩薩）、神庫山（地藏岳：地藏菩薩）で、この3つを赤城三所明神といいます。

また、『神道集』には、美濃（岐阜）出身の「覚満」が赤城山頂で法会を行ったとの記述があります。言うまでもなく、覚満淵は、覚満に由来します。

6-6. 櫃石

三夜沢赤城神社から登った尾根上に、櫃石（ひついし）と呼ばれる、巨大な安山岩の自然石があります。周囲から、ヒスイ製の勾玉をはじめ、5 世紀後半から 6 世紀前半頃の手捏（てづくね）土器、滑石製の模造鉄剣、玉類など、古墳時代の祭りに使われた品物が多数出土したことから、天上の神が降臨するときに目印となるということで祭祀を執り行う、磐座（いわくら）信仰の場所と考えられています。

丸山、石山観音、七ツ石など、孤立丘の頂上にある巨石は、磐座信仰と関連した祭祀遺跡の存在が想定されています。



櫃石（磐座信仰の場）

6-7. 宮田の不動堂

宮田の不動堂は渋川市赤城町宮田にあり、石製不動明王立像（国重要文化財）は鎌倉時代作の凝灰岩製仏像で、溶結凝灰岩をくり抜いた洞窟の中に安置されています。

6-8. 滝澤不動堂

滝澤不動尊は前橋市粕川町中之沢にあり、巨大な洞穴の軒下を借りて本堂が建っています。不動堂の創建は平安時代とされ、安置されている不動尊は1406年、上野国佐貫の庄司藤原道広が奉斎したと伝えられています。

近くに、滝澤不動滝（落差 32m）や忠治の岩屋があります。岩屋は追っ手を逃れた忠治がしばらく隠れていた伝えられ、その中には、国定忠治とその手下2人の人形が置かれています。現在は立ち入り禁止となっています。

6-9. 珊瑚寺

石井山 珊瑚寺は前橋市富士見町石井にあり、807（大同 2）年、勝道上人によって開創された天台宗の古刹で、東国花の寺百ヶ寺、群馬十三番札所、上州七福神 恵比寿尊天、関東百八地藏尊霊場三十五番札所になっています。

境内には、乳房の銀杏、赤面観音、鏡池、不動の滝、穴薬師、涙の梅、臥牛石の七不思議が伝えられています。

6-10. 雲昌寺

赤城山 雲昌寺は昭和村川額（かわはけ）にある曹洞宗の禅寺で、前住職の故中村一雄氏は、竹山道雄著『ビルマの堅琴』の水島上等兵のモデルとされています。

境内には、推定樹齢 700 年で、群馬県指定天然記念物の大ケヤキ（樹高 18m、目通り幹囲 8.5m）があります。

6-11. 医光寺

涌丸山 医光寺は桐生市黒保根町上田沢にある高野山 真言宗の古刹で、嵯峨天皇の弘仁年間に高祖弘法大師によって開基されたとされ、上州三十三観音霊場（本尊 千手観世音菩薩）、関東九十一薬師霊場（本尊 薬師如来）の札所となっています。

虚空蔵菩薩像（群馬県指定重要文化財）が安置され、同指定の紺紙金泥虚空蔵菩薩経（群馬県指定重要文化財）も所蔵されています。また、地元出身で、数々の彫刻を手がけ、上州の左甚五郎と称された彫物師関口文治郎有信が彫ったと伝わる彫刻欄間（桐生市指定重要文化財）もあります。

1558（永禄元）年造立の銅製 虚空蔵菩薩像は、元は赤城山頂小沼の東、虚空蔵岳（小地藏岳）に安置されていたもので、明治末年、堂宇の荒廃によって破損するのを恐れて医光寺に納められたといわれています。また、医光寺には、小沼に受水した赤堀道元の娘が使っていた帯が保存されているとの伝えがあります。

境内には、上泉伊勢守に師事した武芸者で、「法神流」の剣祖の榎本法神の墓もあります。

6-12. 養林寺

無量山 養林寺は前橋市堀越町にあり、鎌倉時代、大胡太郎実秀が浄土宗宗祖法然上人に帰依して草庵を建てたことにはじまり、1590（天正 18）年、徳川家康家臣の牧野康成が 2 万石で大胡城主となった際に菩提寺として創建しました。境内には牧野家墓地（前橋市指定史跡）があり、江戸時代初期の山門が残っています。

なお、康成の子 牧野忠成は、1616（元和 2）年に 5 万石で越後国頸城郡長嶺に、1618（元和 4）年に 6 万石で長岡に転封となり、牧野家は明治維新まで長岡藩を治めました。

6-13. 木曽三社神社

木曽三社神社は渋川市北橘町箱田にあり、木曽義仲に由来するもので、その境内にある「涌玉」は、赤城山の伏流水が 1 日 1 万トン以上湧き出しています。

第7章. 赤城山麓の遺跡・城跡

群馬県（上野国）は、旧石器時代から人々が住み着き、多くの遺跡が残されています。

平安時代末期には平 将門や藤原秀郷の流れをくむ多くの武将（東国武士団）が群雄割拠し、鎌倉時代～戦国時代は相模・北条氏、甲斐・武田氏、越後・長尾（上杉）氏、新田氏・由良氏、信州・真田氏らの領地争いの場所となりました。そのため、防御に最適な赤城山の孤立丘上や河川による崖周辺には、多くの城や砦が築かれました。

7-1. 旧石器（無土器）時代

考古学者の相澤忠洋が 1946 年、みどり市笠懸町のローム層内で旧石器を発見したことから、我が国でも旧石器（無土器）文化の存在が証明されました。発見場所は国指定の岩宿遺跡として整備保存され、岩宿博物館が設置されています。

赤城山南麓では、不二山遺跡（桐生市新里）、権現山遺跡（伊勢崎市豊城町）、入の沢遺跡（桐生市新里町）、桐原遺跡（みどり市大間々町）、岩宿遺跡（みどり市笠懸町）、下触遺跡（伊勢崎市下触町）など、前期・旧石器時代の石器や遺跡が発見されています。これらの遺跡から出土する石器はナイフ型で、約 1.5 万年前に終了しました。

これら以降では、細石刃（長さ 2～3cm、幅 3mm 程度）をを並べて骨や木に埋め込み、組み立て式の槍を作るものが主流になりました。細石器の出土が主とするものとなりました。代表的な遺跡は、①群（鳥取福蔵寺 II 遺跡、荒子頭無遺跡）、②群（杣形遺跡、柏倉芳見沢遺跡）、③群（一之関前田遺跡、滝窪田ノ上遺跡）などで、①群と 2 群は北方系、③群は南方系で、赤城山が 2 つの文化の接点であったことを示しています。

7-2. 縄文時代

●前期：標高 550m の苗ヶ島大畑遺跡から標高 100m の荒子頭無遺跡にかけての広い範囲に分布する約 8,000 年前の縄文時代早期の遺跡では、住居跡とともに動物を捕まえる落とし穴が多数みつかっています。穴はシカ猟用の狭い溝状の T ピットと、イノシシ猟用の小判型があります。

荒子頭無遺跡と隣接する柳久保遺跡では、縄文早期中葉～後半の石斧が配置された遺構が発見され、石斧は赤城山に向けられていました。この頃には既に、赤城山に対する畏敬の念があったことを裏付けています。

●中期：鼻毛石中山遺跡や五代伊勢宮遺跡、渋川市の房谷戸遺跡や道訓前遺跡では縄文中期の住居跡が調査され、出土土器、石器の石材から東北、北陸、南関東、中部地方との交流が確認されています。

7-3. 古墳時代

古墳時代になると、赤城山南麓では 5～6 世紀にかけて、赤堀茶臼山古墳、大室古墳群など多くの古墳が造られました。なかでも、6 世紀前半から後半に築造された大室古墳群は 3 基の大型前方後円墳（前二子古墳：94m、中二子古墳：111m、後二子古墳：85m）と、数基の小型前方後円墳からなり、上毛野氏との関連が想定されています。また、前二子古墳

の東 300m には、被葬者の居住館跡と推定される梅木遺跡(一辺 85m)が存在します。

7-4. 宇通遺跡

前橋市粕川町中之沢から大猿川沿いを登った標高約 650m の場所に、広さ約 7ha にも及ぶ範囲に、16 棟の礎石建物や 50 棟を超える竪穴住居が見つかりました。この大規模な伽藍配置を持つ寺院跡は宇通遺跡と呼ばれています。創建は平安時代後期で、山岳仏教寺院と考えられています。

この遺跡を発見する動機となったのは、1965(昭和 40)年にこの地域をおそった山火事で、その跡始末のとき、礎石が発見されました。群馬大学の尾崎教授による発掘調査では、寺院は火災で焼け落ちたことが示唆されました。吾妻鑑(鏡)の建長 3(1251)年 4 月 26 日の条に、「上野国の赤木岳焼け、…兵革の兆あり」とありますが、この宇通寺遺跡の焼失を物語っているという考えがあります。この条文については、赤城山の噴火を記述したとの解釈もあり、気象庁はこの文章を根拠に、赤城山を活火山に認定していることは、第 2 章で既に述べています。ただし、最近の調査では、寺院の火災について懐疑的となっています。

宇通遺跡は三夜沢赤城神社の旧地とされる元三夜沢としても注目されています。

7-5. 城跡

●長井坂城(昭和村永井、渋川市赤城町棚下)：西側は利根川の断崖、北側は永井沢の自然地形を利用し、東側は二の丸、三の丸が取り囲むように築かれた囲郭式の崖端城です。

1560(永禄 3 年)、上杉憲政を奉じて関東へ攻め入った長尾景虎が陣を敷いたことに始まると伝わっています。

長尾氏(後北条方)の居城する白井城の支城の 1 つで、同勢力の最北端にあたります。現在の遺構は 1582(天正 10)年頃、後北条氏の真田領への侵攻が激しくなったころ、北条氏の沼田攻略の前線基地として整備され、永井の沢を挟んで対峙する真田氏(武田方)との間で争奪が繰り返されました。後北条氏は沼田城を攻撃するため、利根川西岸は中山城、利根川東岸は長井坂城、赤城山東麓は根利道を経由して深沢城(後述)を利用しました。

1590(天正 18)年、小田原城の落城とともに廃城になりました。

●白井城(渋川市白井)：利根川と吾妻川の合流点に北から突き出した台地の先端に築かれ、自然の要害を利用した、東西 830m、南北 1,050m の梯郭式の平城です。

1430-1450 年の間に、長尾景仲(員賢)により本格的に築城され、景信・景春・政景と受け継がれた。長尾氏は、滝川氏、後北条氏などの配下となりましたが、1590(天正 18)年、豊臣秀吉の小田原攻めの際、前田利家に攻略され滅亡しました。

その後を徳川家康の譜代・本多広孝・康重父子が 2 万石で封ぜられ、康重の岡崎移封後、松平康長・井伊直孝・西尾忠永・本多紀貞と続き、1624(寛永元)年、紀貞の卒去とともに廃城となりました。

●箱田城(渋川市北橘町下箱田)：赤城山の孤立丘群(流れ山)の丘上にある平丘城で、西側は利根川の断崖、北側と南側は小河川による谷で守られています。

築城年は不明ですが、白井城の支城として、箱田地衆(木曾義仲の旧臣を称する半農半

士) が守っていたとされています。長尾氏の滅亡(1590 年)とともに、廃城になりました。

近くに、木曽三社神社や真壁城(単郭式)があります。また、箱田城跡は現在、温泉施設「たちばなの郷」となっています。天守閣風の宿泊施設がありますが、当時はこのような天守閣は造られていません。

●上泉城(前橋市上泉町)：南側を桃木川(かつての利根川の流域)の河岸段丘崖で、東側・西側を小河川の谷で守られている、囲郭式の平城です。城域は、東西 600m、南北 400m に達し、県指定の「郷蔵」付近に、本丸と二の丸の跡が残っています。西林寺付近は一の郭、玉泉寺付近は出丸跡と推定されています。

大胡城の支城として築かれ、一族の「上泉氏」が在城していました。剣術『新陰流』の祖で、日本剣道史上の最高峰として、また「剣聖」として、剣道史に名を残した上泉伊勢守信綱は、1508(永正 5) 年、上泉城で生誕し、居城していたと伝えられています。

本丸跡にある「郷蔵」は、江戸寛政期に非常時の食料の備蓄目的に建立された建物です。

●大胡城(前橋市河原浜町)：赤城山の孤立丘群である丘陵上に築かれた、南北 670m、東西最大幅 310m の規模を持つ並郭式の平丘城です。城郭は本丸を中心に二の丸を囲部的に配し、北に北城(越中屋敷)、近戸曲輪、南に三、四ノ曲輪があり、東は荒砥川が流れ、その間に根小屋、西には西曲輪の平坦部が附加され、枳形門、水ノ手門虎口、空濠、土塁等の跡が良く残っています。

中世上野の名族である「大胡氏」の本拠地でしたが、1590(天正 18) 年、徳川家康の関東入部により牧野氏が大胡領 2 万石に封ぜられ、康成、忠成二代の居城となりました。牧野氏が 1616(元和 2 年)に越後長峰(上越市)へ転封後、前橋藩領となり、酒井氏時代には城代が置かれました。1749(寛延 2) 年、酒井氏が姫路へ転封に際し、廃城となりました。

●大室城(前橋市西大室町)：神沢川と東神沢川の合流地点にある囲郭式の平城で、大室神社が本丸跡で、その東が二の丸跡といわれています。当時の濠も残されており、また城の名残をとどめる北曲輪、南曲輪などの地名が残っています。

大室城は、12 世紀中頃まで大室氏の居城で、当初は北西 500m の本城と呼ばれるところにあり、白井長尾氏に属した牧 弾正の時代に現在地に移ったと考えられています。その後は、戦国武将が交代して城主となり、酒井氏が前橋城主になると、家臣であった石川氏がこの城を守りました。酒井氏の姫路転封の伴い、大室城の管理は最善寺に委任されました。

付近には毒島城、女淵城など見所のある城が点在し、東には古墳で有名な大室公園があります。

●膳城(前橋市粕川町膳)：西と南を兎川に面し、東を兎川支流童子川に面する棚状丘陵地に造られた紡錘形をした並郭式の平丘城で、城域は東西 250m、南北 500m に広がっています。本丸や堀、土塁はかなり良好に残されています。

三善康信の子孫である善氏(のち改称して膳氏)の居城でしたが、幾多の歴史を経て、1578(天正 6) 年、北条氏に属し、河田備前守が城主、大胡民部左衛門が城代となりました。

た。天正8年（1580年）、平服の武田勝頼が率いる武田軍が膳城付近を通過した際、城内では酒宴が行われている最中で、武田軍を見た一部城兵が激昂して攻撃してしまいました。この結果、武田勝頼軍の反撃を受けて膳城は落城しました。これを「膳城素肌攻め」といいます。この戦による落城後、廃城となりました。

近くに、女淵城（前橋市粕川町女淵）があります。女淵城の周囲はかつて沼沢地であったことから、赤城山南面では、珍しい水城といってもいい形状をした城です。

●山上城（桐生市新里町山上）：赤城山南麓の低い舌状丘陵に築かれ、平端地の館が城郭に移行するようになった初期のものと思われています。北から笹郭、北郭、本丸、二の丸・三の丸、南郭の順に一直線に並び、周囲に腰郭・帯郭を配し、西に空堀を隔てて帯郭が付く並郭構造で、川や谷などの自然を要害とした平丘城です。空堀は南北方向に長さ400mあり、北から南に標高が減じる赤城山南麓の地形を利用した城の特徴を踏襲しています。

藤原秀郷の子孫 山上五郎高綱によって築城されました。北条氏、上杉氏、由良氏の持ち城となっていました。1582（天正8）年、上杉輝虎（謙信）の死後、北条氏邦が山上城を攻めましたが、攻略したか否かは判然としません。戦国時代末期に武田勝頼に攻められたのち廃城となりました。

●赤堀城（伊勢崎市赤堀町今井）：粕川と鏑木川に挟まれた自然地形を利用した、方形の主郭を中心に二の郭が主郭の三方を囲み、さらに主郭の北側と南側にも曲輪を配した、赤城南麓に特徴的な囲郭式と並郭式を併せ持つ平城です。

赤堀氏は足利教綱を祖とする善氏で、戦国期、赤堀親綱の時に横瀬氏の配下となり、その子景秀まで赤堀城に在城しました。その後、赤堀城は後北条氏の支配下に入り、家臣小菅氏が赤堀城に入城しましたが、豊臣秀吉の小田原征討で後北条氏の滅亡とともに廃城となりました。

●桐生城（桐生市梅田町城山）：赤城山からは大分離れていますが、桐生市街地の北側5キロ、桐生川上流に添った形で聳える城山頂上に築かれた山城で、先端の山頂部に1郭を置き、その北側に2郭、さらにそこから北東に派生する尾根に4または5郭を置く構成となっています。柄杓山城とも呼ばれています。

1350（南朝 正平5、北朝 貞和6）年、桐生国綱によって築かれたとされます。1572（元亀3年、太田金山の由良成繁が柄杓山（桐生）城を攻め、桐生親綱は佐野に逃走してしまいます。その後、由良成繁は新田金山城を子に譲り、本拠を桐生城に移しました。1590（天正18）年、後北条氏の滅亡により由良氏は牛久に領地代えとなり、廃城となりました。

●深沢城（桐生市黒保根町宿廻）：渡良瀬川の河岸段丘の台地縁にあり、神梅城とも呼ばれています。本丸と堀を隔てて、東側に2郭を持つ囲郭式の平丘城で、この2郭の前面下には腰曲輪があります。

永禄年間（1558～70年の間）に、平安時代から同地を支配していた黒川郷士の阿久沢氏によって築かれたとされます。1566（永禄9）年、武田軍が西上野に進出したため、上杉家は厩橋（前橋）と越後間の往来に支障が生じ、「根利道」が利用されました。その際、根

利道」に精通し、権益を握っていた阿久沢氏の協力が必要でした。

阿久沢氏は後北条氏に通じていたため、豊臣秀吉により後北条氏が滅ぼされると帰農して家名を保ち続けました。後に城地に天台宗・正円寺が築かれ、阿久沢氏代々の菩提寺となりました。

8-1. 赤城山の神と二荒山（日光男体山）の神の争い

赤城山と二荒山（日光男体山）の神が土地や水をめぐって争ったとの伝説は、群馬県内、栃木県内に数多くあり、遠くは福島県会津地方にもあって、いくつかのバリエーションがあります。

●戦場：争いの場所はいくつか伝えられていますが、日光の戦場ヶ原で戦い、勝負がついた所が中禅寺湖畔の菖蒲ヶ浜、血を流した所が赤沼、勝利を祝った場所が歌ヶ浜という説があります。

●勝敗：赤城山の神が勝ち、二荒山の神が流した血で山が赤くなった（桐生市新里町）、逃げるときに目を傷めて細くなった（片品村）の伝説を除くと、二荒山の神が勝って、赤城山の神が流した血で山が赤くなったとの伝説が優勢です。

争いの原因は、土地争い、水の奪い合いが多くなっています。それには、火山地帯の慢性的な水不足、上毛野国と下毛野国の分割が関係しているようである。土地争いの伝説では、弓の名人であった鹿島の猿麻呂が二荒山の神を加勢したとあり、下毛野国と常陸国との協力関係がうかがえます。両国は、毛野川（鬼怒川：江戸時代に利根川本流へと流路切替え）で結ばれていました。

1月4日には、中禅寺湖畔の二荒神社中宮境内で、赤城山に向かって矢を射る武射が行われます。

●化身：赤城山の神の化身はムカデ、二荒山の神の化身は大蛇とされている場合が多くみられます。桐生市新里町板橋には、赤城山へ上る東南麓の参道として、1782（天明 2）年に建てられた安山岩製の赤城の百足（ムカデ）鳥居（高さ 4.4m、笠木長さ 6.25m）があります。鳥居の鳥木には長さ 1.3m の百足が陽刻されています。

一方、赤城山の北麓の沼田市利根町の老神温泉では、赤城の神を大蛇としています。老神温泉は、赤城の神が傷を癒し、年老いるまで滞在したことに由来するといわれ、近くには二荒山の神を追い返した「追貝（おっかい）」の地名があります。

この伝説にちなんで、老神温泉では毎年 5 月、老神温泉大蛇まつりが開かれます。2013 年の祭りでは、全長 108m の大蛇みこしが登場し、ギネス世界記録が認定されました。この大蛇みこしは、12 年ごとの巳年に、数百人の担ぎ手とともに登場することになっています。

大蛇祭りでは、通常は長さ 18m の子ども大蛇みこしと、22m の若衆大蛇みこしが温泉街を練り歩きます。

2014 年の大蛇祭りから、2 日目（5 月 9 日）に、日光に向け鏑矢（かぶら矢）を射る、魔障退散の儀式「藝目（ひきめ）の儀」が行われています。



日光二荒山神社（中宮）の武射



老神温泉の大蛇みこし

8-2. 淵名姫と赤城姫

高野辺大将家成には3人娘（淵名姫、赤城姫、伊香保姫）と1人の息子がいた。大将は後妻を信濃国から迎えたが、弟の更科次郎兼光をそそのかして長女の淵名姫を殺害した。次女の赤城姫は赤城山に逃げ込み、赤城大明神となった。末の伊香保姫は、伊香保太夫の居城に護られた。

都で出世していた息子は、軍勢を率いて上野国に戻って兼光を殺し、継母らを捕らえて、信濃へ追放した。継母は姨捨山に捨てられた。

8-3. 赤堀道元の娘

佐波郡赤堀村（伊勢崎市と合併した旧赤堀町）の長者 赤堀道元には1人の娘がいたが、16歳になったとき赤城山に登り、小沼に入水して竜になった。娘はもともと、小沼の主だったのである。お供の腰元はカニとなって小沼に住み着いて竜となった娘を探しており、腰元ガニと呼ばれている。

桐生市黒保根町の医光寺には、赤堀道元の娘が、沼に入る前に置いていったと伝えられる「道元娘の帯」が保管されているという。

登山道中、月田（前橋市月田町）の近戸神社境内の石に腰掛けたのが、「鞍掛石」である。

8-4. 巨人・鬼・天狗・ダイダラボッチ

●巨人：桐生市相生町には、巨人が来て、赤城山に腰を掛けて一休みして、大きな足跡を残したという伝説がある。その地を足仲（現在は相生町二丁目）という

●赤城のへっぴり鬼：力の強い鬼2匹（赤鬼と青鬼）が、互いに自分の力を自慢していて、毎年勝負をしていた。ある年は、いつになく山芋がたくさん採れたので、鬼は勝負の前にたらふく山芋を食べて勝負に挑んだ。いざ相撲が始まって力を入れたところ、おならを吹き出して空高く舞い上がってしまった。赤鬼は尻から落ちて大沼を、青鬼は頭から落ちて小沼を造った。2匹の鬼の勝負は今でも続いていて、大きなおならを吹き鳴らしている。それが「赤城のからっ風」である。

●大天狗・杉の坊：赤城山には多くの天狗がいたと言われ、それを取り仕切るのは杉の坊という大天狗だという。昔の上野国の歴史を書き記した「前上野史」にも、「飛鳥社（天狗を祀る）」と記載されています。

杉の坊は、和歌山県由良町にある興国寺を一晩で再建したという。

●ダイダラボッチ：ダイダラボッチという大男がいて、赤城山に腰を掛けて利根川で足を洗った。キセルを叩いた灰が丸山で、吉沢にある池が足跡だという。

8-5. 洪水

●おおみ堂の釣り鐘：渋川市赤城町溝呂木（みぞろぎ）のおおみ堂のみぞろヶ池には主の大蛇がいた。大きくなったので赤城山小沼に移ったが、嵐が起こって水が溢れておおみ堂の鐘も流されてしまい、筑波山の麓に流れ着いた。今もこの鐘を突くと、「溝呂木恋しやゴーン」と鳴るという。

●流山：千葉県流山市には、約 750 年前の洪水のとき、赤城山が崩れて流れ着き、小山が突如姿を現したという伝説があります。これが「流山」の地名の由来の 1 つで、台地上に赤城神社があります。

8-6. 俵杉と俵藤太

俵藤太(藤原秀郷)は弓矢の名手で、大ムカデを退治して琵琶湖の龍神を助け、平将門の乱を鎮め、神仏への崇敬篤い英雄として描かれている。三夜沢赤城神社境内の俵杉は、俵藤太が上野国に来たとき献木したものであるという。

鎌倉時代の東国武士団は「秀郷流」と称し、その中でも赤城神社への信仰が篤かったのが大胡氏で、俵杉を植えたのも大胡氏だったことも考えられます。



三夜沢赤城神社本殿・中門



中門前の俵杉

8-7. 赤城神社の社格について

『延喜式神名帳』で赤城神社は、貫前神社に次いで上野国二之宮で、それには以下のような伝説があります。

赤城神社の赤城神社（赤城神）は初めのうちは上毛野国一之宮だったが、機織りをしたとき、「くだ」が足りなくなってしまう、貫前神に借りてようやく織り上げることができた。それに感謝して、貫前神社に一之宮を譲った。また、財力に富んだ貫前の女神を他国に渡してはならないと、赤城神が貫前の女神に一之宮を譲った。

8-8. 徳川埋蔵金

幕末に、徳川幕府の勘定奉行だった小栗忠順が、大老 井伊直弼の命で軍資金（360 万両）を赤城山麓（渋川市赤城町）に埋めたとの伝説があります。江戸時代末期の徳川幕府は財政ひっ迫していたので、隠すほどの大金はなかったようです。

8-9. 珊瑚寺の七不思議

乳房の銀杏、赤面観音、鏡池、不動の滝、穴薬師、涙の梅、臥牛石の七不思議が伝えられています。

8-10. 血の池

昔、赤城の原に老夫婦と一人娘が住んでいた。娘はたいそう綺麗だったので、言い寄る男が沢山いたが、娘はそれを嫌がり、「この空き地に井戸を掘り、もし水が出たら嫁になりましょう。」と言った。ある男が毎日休まずに掘って、ついに水が出ると分かったとき、娘は急死し、血がその井戸に入った。そこを血の池と呼ぶようになった。



小沼（左）と血の池（右）

8-11. すずり石

前橋市富士見町山口の北方にすずり石という大きな石があり、窪みに水がたまっている。昔、親鸞聖人が近くを通ったときこの水を硯に受けて経文を書いたので、すずり石と呼ばれるようになった。

8-12. 田島の大石

前橋市富士見町田島には天狗の足跡石というのがある。天狗が飛んできて、この石に止まったと言われ、大きな足跡がついている。この石の上で子供が遊んでいて落ちて、け

がをすることがないという。田島の大石は、現在はどこにあるのか不明です。

8-13. 鈴ヶ岳の名前の由来

豊城入彦命が麓に御殿を造って祭りで舞い、この時使った鈴を頂上に納めたので鈴ヶ岳と名付けられた。

8-14. 鍋割山の名前の由来

弘法大師が修行の霊場を開山するため、一山百谷存在の霊場を求めて赤城山を訪れて山中を探したが、杉の坊（荒山）に隠れて九十九谷しかなかったので、諦めて下げていた手鍋を投げ捨てて赤城山を去った。その鍋が割れて被さったのが鍋割山だという。

鍋を伏せたような形状と、弘法大師を結びつけた伝説です。



渋川市から見た赤城山西面：右から、鍋割山、荒山、地藏岳

8-15. 荒山の別名（浅間山）

1569（永禄 12）年、富士浅間神社の神様が荒山山頂に降臨し、ここに、浅間神社を祀るとの記述があります。荒山の前に位置する小ピークを前浅間山というのは、そのためです。

一般に、富士山に似たピラミッド型の山は、富士山や浅間山と呼ばれる例が多くみられます。赤城山を南側から見ると、荒山はピラミッド型です。

8-16. ムカデ鳥居

藤原秀郷があるとき、大猿の地（現 前橋市粕川村室沢）で、橋だと思って渡ったところ、それが大ムカデで、赤城様の化身だったという。それで、そのムカデをかたどって、鳥居にきざみつけたのが板橋のムカデ鳥居という。板橋ではムカデを見たとき、「ムカデは赤城へ行け」といえば、赤城に向かって登っていくという（桐生市新里町板橋の伝説）。

第 9 章. 赤城山の行事

9-1. 山開き祭り

赤城山の開山は 807 (大同 2) 年で、二荒山 (男体山) を開山した勝道上人によるとされます。これにちなんで 5 月 8 日 (旧暦 4 月 8 日)、大洞赤城神社で山開き祭りが行われます。この日は、「山の神」と「里の神」が交替するとの伝承があります。

かつて、東麓 (旧 黒保根村) の人たちは、赤城山の山開きのとき、過去 1 年間に亡くなった人のいる家では神庫山 (地藏岳) に登り、山頂の賽の河原で石積みをしたそうです。

9-2. レンゲツツジ祭り

6 月初旬～中旬、レンゲツツジの開花に合わせて、新坂平と大洞のイベント広場でレンゲツツジ祭りが開かれます。

9-3. 三夜沢赤城神社例大祭

5 月 5 日、三夜沢赤城神社例大祭が開かれ、長年にわたって継承されてきた太々神楽 (前橋市無形文化財) が奉納されます。

9-4. 大洞赤城神社 夏の例大祭と赤城山夏祭り

大洞赤城神社 夏の例大祭 (8 月 8 日) に合わせて、8 月の第一土・日曜日、大沼湖畔で赤城山夏祭りが開かれます。ミス淵名姫・赤城姫が登場し、ホウレンソウ早食い競争などが行われます。土曜日の夜は、大沼湖上での灯籠流しと花火の打ち上げがあります。

9-5. 大洞赤城神社 秋の例大祭

毎年 10 月の体育の日 (第 2 月曜日) に、大洞赤城神社 秋の例祭が行われます。10 時の祭典に始まり、武者行列、流鏑馬 (やぶさめ) や居合抜刀術、火縄鉄砲術、郷土芸能などの奉納行事が行われます。

9-6. あかぎ大沼・白樺マラソン大会

8 月の最終日曜日、大沼湖畔でマラソン大会が開かれます。種目は 2km (大沼半周) から 20km (大沼 4 周) です。

9-7. 赤城山ヒルクライム大会

2011 年から始まった赤城ヒルクライム大会は、標高差 1,313m、走行距離 20.8km で、国内でも屈指の標高差を持つ自転車ロードレースです。

9-8. 赤城山雪祭り

大沼は 12 月下旬に全面結氷し、赤城山雪祭りの最終日の 2 月の第 1 日曜日には、ワカサギ釣り大会が開かれます。当日は、氷結した湖上や第 1 スキー場 (日本一小さいスキー場との言われている) で、各種ゲーム・イベントも同時開催されます。

最近では、大洞赤城神社境内で、北欧のヤドリギ伝説にヒントを得た、「赤城山の中心で愛

をさけブー」(略称：赤チュー)という絶叫大会も開かれ、赤城山山頂で全面結氷した大沼の真っ白な氷原に、女性が男性への思いを高らかに叫びます。男性のサケビストも可能です。

9-9. 電力中央研究所赤城試験センターの一般公開

5月または10月の日曜日、前橋市苗ヶ島町にある(財)電力中央研究所赤城試験センターが一般開放されます。深夜電力の有効利用を考えた野菜の促成栽培、ヒートポンプ装置、超伝導実験、人工雷実験、100万ボルト送電試験鉄塔などが見学できます。

9-10. 赤城南面千本桜祭り

前橋市苗ヶ島町には、長さ約1.3kmに及ぶ赤城南面千本桜の桜並木があります。このソメイヨシノの並木は、1956年から5年間かけて地域住民が植えたもので、下と上で標高差が約300mあり、開花時期が約1週間以上異なり、長く桜を鑑賞することができます。

赤城南面千本桜は「日本のさくら名所100選」に選ばれています。

9-11. 赤城山トレイルランニング・レース

5月の第3日曜日には、国立赤城青少年交流の家をスタート・ゴールとする、赤城山トレイルランニング・レースが開催されます。起伏のあるミドル(31km)、ショート(15km)の山道コースで、競技が行われます。

赤城山トレイルランニング・レースは、京都東山三十六峰大会、愛知三河高原大会とともに、三兄弟大会の一つになっています。

9-12. 老神温泉・雪ほたる&冬のイルミネーション

赤城山北麓の老神温泉では、1月の第1土曜日～2月の第4土曜日、およびこの間の祝前日に、幻想的な雪や氷の灯籠が温泉街をやさしく照らす「雪ほたる&冬のイルミネーション」が開催されます。

9-13. 望郷ライン・センチュリーライド

8月の最終日曜日に実施される、昭和村総合運動公園(昭和村糸井)をスタートとする自転車ロードレースで、最長は110kmです。

第 10 章. 観光

10-1. テーマパーク

国道 353 号沿いには、世界の名犬牧場、群馬県馬事公苑、大胡グリーンふらわー牧場（オランダ式風車が回っている）、赤城高原牧場クローネンベルク（ドイツ村テーマパーク）、ぐんまフラワーパーク、ぐんま昆虫の森など、テーマパークがたくさんあります。

なお、赤城高原牧場クローネンベルクは 2017 年 1 月末で営業を止めました。

渋川市赤城町南赤城山には赤城自然園があり、広大な敷地の中に、造園とは違う自然を活かした散策コースが張り巡らされ、森の中を自由に散歩することができます。当園は森林セラピー・ステアリングコミッティより、「森林セラピー基地」に認定されています。

10-2. ワカサギの穴釣り

9 月 1 日から 3 月 31 日まで、大沼のワカサギ釣りが解禁になります。全面結氷する 1 月からは、氷上で穴釣りができます。釣りができる時間帯は午前 6 時～日没までの間ですが、早朝がよく釣れるそうです。

10-3. ローラースライダー

箕輪の赤城ふれあいの森（2018 年 4 月 1 日より、SUBARU ふれあいの森 赤城）にあるローラースライダーは長さ 380m で、2017 年 10 月時点では、ボブスレー式を含めたすべての滑り台では第 5 位、ローラースライダーとしては静岡県日本平動物園の 390m に次いで全国第 2 位です。無料で利用できるのは嬉しいことです。

10-4. 日本の 100 選

●赤城山：多くの人や団体によって、「日本百選」、「日本百名山」、「花の百名山」、「日本の自然 100 選」、「女性のための百名山」、「人と自然の織りなす風景 100 選」、「日本百景」、「新・花の百名山」などに選ばれています。

●棚下不動の滝：渋川市赤城町の溶結凝灰岩の崖を流れ落ちる棚下不動の滝（落差 37m）は「日本の滝百選」に選ばれています。

●赤城南面千本桜：前橋市苗ヶ島町にある赤城南面千本桜は、「日本さくら名所 100 選」に選ばれています。

●前橋市粕川町室沢の棚田：「にほんの里百選」に、選定されています。

●沼田市利根町の森林：「水源の森百選」に選ばれています。

●沼田市利根町根利：沼田市利根町根利には「日本の山水発祥の地」とされている土地があります。ちなみに、「日本の山水発祥の地」の定義は、山、川、水、道、橋があり、東西南北 50m 以内に他の建物がない場所だそうです。

- 赤城神社と参道の松並木：「美しい日本の歴史的風土準 100 選」に選ばれています。
- 赤城山山麓を走る JR 上越線、両毛線、渡瀬溪谷鐵道：「ローカル線 100 選」に選定されています。
- 南麓の大室公園：大規模前方後円墳 3 基と、複数の小規模古墳がある「日本の歴史公園 100 選」に選定されています。
- 赤城山中腹の大パノラマ展望台（サンシャイン峠展望台）：「夜景 100 選」に選定されています。
- 荒山高原：「日本の自然 100 選」に選定されています。
- 大カヤ（カヤ）：赤城山南西麓の前橋市富士見町横室の大カヤが「新日本名木百選」に選定されています。
- 群馬用水：赤城山の南西～南麓を灌漑する群馬用水は「疏水百選」に選定されています。
- 赤城山麓の養蚕ムラ：「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されています。
- ぐんまフラワーパーク（2018 年 4 月 1 日より、ケネコ種苗ぐんまフラワーパーク）：2015 年、「日本夜景遺産」に認定されています。

10-5. 観光開発

1950 年代、赤城山の観光開発にあたり、西武鉄道と競争して勝利した東武鉄道は、1957 年、利平茶屋駅から赤城山頂駅（鳥居峠）間に赤城登山鉄道のケーブルカー（赤城山鋼索鉄道：全長約 1,100m、標高差約 360m）を開設しました。車両には愛称はつけられていませんでした。

開業当時は多いに賑わいましたが、前橋・富士見ルートが整備されてほとんどの観光客が利用するようになったため、大間々・黒保根ルートの利用者が激減し、わずか 10 年後の 1967 年 11 月 5 日に全面休止、翌年 6 月 1 日に完全廃止されました。

現在、赤城登山鉄道（ケーブルカー）の赤城山頂駅は、赤城山頂駅記念館サントリービア・バーベキューホールとして利用され、内部に登山鉄道施設の資料が展示されています。鳥居峠からは、登山鉄道の路線跡が見られます。2018 年には、山頂駅舎とプラットホームが登録有形文化財（建造物）に登録されました。

さらに、地蔵岳山頂まで、リフトとロープウェイで登れるようにしましたが、1998 年に廃止されました。ゴンドラの名前は、「やしお」と「れんげ」でした。

なお、赤城山の観光開発当時は、「和服で登れる赤城山！」の観光キャッチフレーズで宣

伝えられていました。

八丁峠には、スキーリフトの鉄柱 1 本が残っています。

10-6. 温泉

火山というと温泉を連想します。昭和初期まで地蔵岳直下に地獄谷温泉の旅館がありましたが、現在は、山頂付近には温泉はありません。1989 年に、オトギノ森で温泉掘削が行われたことがあります。有毒ガスの噴出があり、1999 年をもって温泉開発は断念されました。

山麓で火山活動と直接関係する温泉は、南麓にある赤城温泉（炭酸水素塩泉）だけです。かつては湯之澤温泉と呼ばれ賑わいました。初代群馬県令の楫取素彦が二人目の妻 文（後に美和子と改名）と婚前旅行に出かけたとされています。

赤城山周辺には、富士見温泉（前橋市富士見町）、南郷温泉（沼田市利根町）、前橋荻窪温泉（前橋市荻窪町）、赤城高原温泉（前橋市苗ヶ島町）、北橋温泉（渋川市北橋町）、梨木温泉（桐生市黒保根町）など多くありますが、泉質は梨木温泉が含食塩炭酸泉であることを除くと、いずれも塩化物泉で、2,000～1,200 万年前に海水が閉じ込められたものです。

10-7. 青木旅館

赤城山頂大沼湖畔にある青木旅館は、1875（明治 8）年創業の老舗の旅館で、明治～昭和中期まで、多くの文人が宿泊しました。

10-8. 猪谷旅館

猪谷六合雄の父・春雄が 1873（明治 6）大洞に開業した旅館で、六合雄に引き継がれてまもなく、姉の大熊千代（ちよ）に売却されました。その後はホテル赤城と改名し、長男の大熊勝朗が経営していましたが、現在は廃業しています。勝朗の息子兄弟は、赤城山大洞でバンガロー「森の家」を営んでいます。

10-9. 県立赤城公園ビジターセンター

ビジターセンターの展示室には、赤城山の立体模型、動物の剥製、植物や大正時代～昭和初期の赤城山頂の生活の様子が写真展示され、典型的な岩石も置いてあります。

注目すべき展示物は、赤城山で育ち、イタリア・コルティーナ ダンペッツォ冬季オリンピックのスラロームで銀メダルを獲得した猪谷千春が使ったスキー板です。

なお、ビジターセンターは路線バスの終点（バス停名は、赤城山ビジターセンター）で、目の前は第 3 スキー場のゲレンデです。

10-10. 阿久沢家

前橋市柏倉町 604-1 にある、古い農家形式を残す旧家で、17 世紀末頃の建築と伝えられています。阿久沢家は江戸時代には名主や組頭をつとめていました。1970（昭和 45）年、国指定重要文化財に指定されました。

10-11. 沼田市南郷の曲屋（旧鈴木家）

2002（平成 16）年、沼田市の重要文化財として指定し旧鈴木家住宅で、南郷しゃくなげの湯の敷地内（沼田市利根町日影南郷 100）に移築したものです。

鈴木家の先祖は、当地に熊野神社を建設するため、神官とし来村して定着し、代々名主を務め、政治家などを輩出してきました。当家は検地等で訪れる役人の逗留施設でもあり、主屋の上段の間には、付け書院、帳台構えを設け、武家の好んだ正式な書院造りをしています。

主屋は東北地方でよく見られる民家の曲屋形式で、突起部分はウマヤとなり、群馬県内では珍しい茅葺き屋根の曲屋形式の民家です。

建物の正確な建造年代は不明ですが、敷地内の稲荷社の側壁に「天明 5 年 10 月大吉日」とあることや、建築手法の面から検討した結果、1785（天明 5）年に竣工されたと推測されます。

10-12. スキー場

赤城山頂にはスキー場が 2 ヶ所（地藏岳斜面に第 1 スキー場、小地藏岳斜面に第 3 スキー場）があります。

第 1 スキー場は日本一小さいスキー場とされています。かつては見晴山斜面に第 2 スキー場がありましたが、現在は使われていません。

国立赤城青少年交流家近くの赤芝地区には芝スキー場があります。

10-13. 美術館・博物館

●中之沢美術館：群馬県前橋市中之沢町にある「自然の中の芸術」というテーマを具現化した NPO 法人として運営されている美術館で、企画展が中心となっています。

●サンデンフォレストとわくわく自販機ミュージアム：前橋市粕川町中之沢にある、産業と環境の共存する工場をコンセプトとするサンデンフォレストでは、自然体験教育と、自販機工場・自販機ミュージアムの見学ができます。

11-14. 相澤忠洋記念館

相澤忠洋記念館（桐生市新里町奥沢）は、日本の歴史を塗り変えた「岩宿遺跡」の発見者、相澤忠洋の旧石器をテーマにした記念館です。この記念館には、槍先形尖頭器を初め、赤城山麓の赤土に賭けた執念が実り、21 ヶ所の遺跡で発見された約 300 点の石器や縄文早期の土器片、自筆原稿、芹沢長介先生との往復書簡、復元図、パネル図版、写真、表彰関係品、書籍、カメラを始め愛用の遺品等を展示しています。また、館内では、岩波映画社作製の「太古への夢、岩宿遺跡」を放映しています。

11-15. スローシティー

チッタスロー協会（本部はイタリア・オルビエート市）は、ゆとりある質の高い生活や食文化と環境を尊重した都市の実現を目的としており、2017 年 5 月 12 日に同協会に、前橋・赤城地域（宮城・富士見地区、芳賀・大胡・粕川地区の一部）の加盟が認定されまし

た。国内では宮城県気仙沼市に続き、2 例目です。

第 11 章．赤城山の雑学

11-1. 鍋割山は犬の顔

前橋市の市街地から赤城山を眺めると、正面に鍋割山が見えます。その姿は、鍋割高原が鼻で、頂上から左右に延びる斜面が大きく垂れた耳のようで、ゴールデンレトリバーやビーグル犬の顔に似ています。伊勢崎市や太田市方面から見ると、鍋割山はイヌの横顔になります。

なお、鍋割山山頂(1,332m)の二等三角点は、設置から 120 経過していましたが、埋められていた部分が露出して倒れる危険があるため、2017 年 12 月に撤去されました。

11-2. 赤城の影牛

西日が当たる頃、前橋市東部から鍋割山を見ると、鍋割山～荒山間の谷に映る影が、右を向いた牛の顔に見えます。そして、鍋割山を牛の胴体と見たたて、赤城の影牛と呼ばれています。



鍋割山（右の影は伊勢崎方面からは牛の頭に見える）

11-3. 一等三角点本点

一等三角点本点は約 40km の間隔で置かれ、全国をカバーして地図作成の基本となっています。群馬県内の一等三角点本点は地蔵岳山頂だけにあり、一等三角点間の見通しの悪い箇所をカバーする一等三角点補点（約 25km 間隔：一等三角点としてリストされている）は、群馬県内に 8 カ所あります。



地藏岳山頂の一等三角点本点

11-4. 大沼、小沼の正しい読み方

赤城山の山頂にあるカルデラ湖の大沼は「おの」、小沼火山の火口湖の小沼は「この」と読みます。しかし最近は、「おおぬま」、「こぬま」と読む人が多くなっています。

11-5. スバル 360 のテスト走行

富士重工業（現スバル）が開発した軽自動車の名車スバル 360（通称テントウムシ）は、伊勢崎－赤城山頂間の砂利道でノンストップ往復テストを実施し（1957 年 8 月または 1958 年 2 月）、高性能が確認されました。



スバル 360（通称テントウムシ）

11-6. スキージャンプの日本記録

1928（昭和 3）年、猪谷六合雄の手によって地藏岳中腹に、日本で最初の本格的スキージャンプ台（50m 級）が作られました。1929 年 2 月に、この台を使った赤城ジャンプ大会が開催され、猪谷六合雄は 46m の日本記録を打ち立てました。この大会に参加したノルウェーの選手達は、軽々と 50m 超を飛びました。

なお、猪谷六合雄は、1956 年開催のイタリアのコルティーナ・ダンペッツォ冬季オリンピックにおけるスラローム種目の銀メダリスト 猪谷千春の父親です。また赤城山を訪れた多くの文人が書の中に描いている千代（ちよ）は、六合雄の姉です。



赤城山のウインタースポーツ（1930 年代～1960 年代）

11-7. 赤城山の行政区分

赤城山本体の行政区分は、反時計回りで、前橋市、桐生市、沼田市、昭和村、渋川市になります。山頂カルデラ内は全て前橋市の行政区分ですが、最高点の黒檜山頂は桐生市と沼田市の市境で、前橋市ではありません。

前橋市、桐生市、沼田市が一点で交わる場所は御黒檜山大神石碑です。また、前橋市、沼田市、渋川市が一点で交わる場所は薬師岳山頂西の薬師如来石碑の設置場所です。

11-8. 前橋市富士見町赤城山 1 番地

この番地の土地は、鳥居峠から赤城公園ビジターセンター間です。この番地があるように、かつての赤城山登山は、桐生市黒保根町からのルートがメインであったことがうかがえます。

第 12 章. 文学・芸術

赤城山は東京からも近く、しかも関東平野に対峙してそびえているため、明治時代から多くの文人・芸術家が訪れ、そのときの滞在記や滞在中の出来事を執筆しています。

12-1. 萩原朔太郎

前橋出身の近代詩家の萩原朔太郎は、1929 年発表の『帰郷』で、「わが故郷に帰れる日・・・・・・まだ上州の山は見えや・・・・・・」の詩を創作しています。名前は出ていませんが、東京（上野駅）から前橋に向かう高崎線の右側車窓から見える赤城山を指していることは間違いありません。

12-2. 与謝野鉄幹・晶子

与謝野鉄幹と晶子は、赤城山を 1905（明治 38）年と 1934（昭和 9）年の 2 回訪れ、2 度目の旅の翌月号の歌誌「冬柏」に、鉄幹は 89 首、晶子は 69 首の赤城を詠んだ短歌を発表しました。

12-3. 幸田露伴

1895（明治 23）年、地獄谷温泉に 2 週間滞在して『一口剣』を完成させ、滞在中の経験を「地獄溪日記」に著して、後世の赤城を訪れる文人たちに影響を与えました。

12-4. 志賀直哉

1915（大正 4）年 5 月から 9 月まで、康子夫人と大洞の山小屋に住んでいました。その滞在経験をヒントに著した短編が『焚火』で、小鳥ヶ島の赤城神社境内には、小説の末尾文章が刻まれた文学碑があります。

なお、文学碑の脇には「万葉集」の歌碑もあり、それには『上毛野 くろほの嶺の くずはがた 愛しけ児らに いや離り来も』（万葉集巻 14（東歌）、3431）と、万葉仮名で書かれています。

志賀直哉を始めとする文人集団「白樺派」の名称は、赤城山の白樺に由来するとされています。これにちなんで、2009 年 4 月 10 日、赤城山総合観光案内所（白樺の森文学コーナー）が開設されました。

この建物は、1983 年にエネルギー資料館として群馬県が設置し、風力発電の風車が建物上にありました。2001 年には旧富士見村に譲渡され、赤城山総合観光案内所として利用されてきました。そして、案内所内のエネルギー資料館部分を白樺の森文学コーナーとしてリニューアルしたもので、赤城山の歴史（猪谷旅館レプリカ、赤城山年表など）、赤城山ゆかりの人々（猪谷六合雄、猪谷千春、今井善一郎）、赤城山の文学（赤城山の文学碑マップ等）、文人たちの赤城（志賀直哉、高村光太郎、与謝野晶子、芥川龍之介）、赤城山にゆかりのある書物展示（岩澤正作、水原秋桜子、志賀直哉、川端康成）、赤城山模型、その他が展示されています。

12-5. 高村光太郎

1909（明治 37）年に赤城山を 2 回訪れて、夏を通して 50 日余りを過ごし、赤城の自然や風物を絵に描き（赤城画帖）、小説『赤城相聞歌』や散文『赤城山の歌』を発表しました。「赤城山の歌」のなかで代表的なものは、「あゝこれ山そらを劃りて立てるもの 語らずおろかさびてたつもの」があります。

また、小説『毒うつぎ』の中で、猪谷六合雄の姉 猪谷千代を描いています。千代については、水野葉舟『おみよ』にも記述があります。

12-6. 深田久弥

日本百名山の選定者で有名な深田久弥は、1926（大正 15）年に赤城山に登り、その品格について、「見事なのは、のびのびと裾野へ引いた稜線であって、…胸がすくようである」「人を暖かく包み込んでくれる山の代表」と述べています。

百名山のうち、標高が最も高い山は富士山（3,776m）で、赤城山（1,828m）は、その中では 78 位です。なお、群馬県内の百名山は 11 座（32 位 日光白根山 2,578m、33 位 浅間山 2,568m、41 位 四阿山 2,354m、46 位 至仏山 2,228m、48 位 草津白根山 2,171m、49 位 武尊山 2,158m、51 位 皇海山 2,144m、52 位 平ヶ岳 2,141m、66 位 谷川岳 1,977m、67 位 巻機山 1,967m、78 位 赤城山 1,828m）で、これらの中では、赤城山は最も低い山です。

12-7. 岩澤正作

猪谷六合雄とともに、二人の「赤城の主」といわれており、研究分野は自然科学、郷土史、考古学と幅広く群馬考古学の礎を築いた人物です。著書『赤城山』の中で、上毛三山はそれぞれ魅力があるが赤城山が一番であるとして「殊に茫漠たる平野に向かって、特趣の裾野を長く曳けるは一層人目を惹きて、上毛名山の月桂冠を得たる所以ならむ」と記述しています。

2016 年には、小鳥ヶ島の赤城山資料館に岩澤正作資料室が新設され、親族の方から寄贈された資料が展示されています。

12-8. その他の代表的文人

芥川龍之介は「赤城の山つつじ」を、関口 泰は赤城山について「山湖随筆」に記述しています。

正岡子規は、赤城山の夏について「上毛三山は群馬を代表する山々である。毎日見ている山である。朝な夕な私たちの体の中に溶けこみ、刻みこまれている懐かしい風景である」と書き、「赤城は幽邃（ゆうすい）なり、榛名は温順なり、妙義は奇警斬新なるが如し」と表現しています。また、「榛名笑ひ赤城泣き妙義怒るかな」、「榛名春 赤城夏妙義を 秋の姿かな」と詠んでいます。

室生犀星は詩集「赤城山」を、東宮七男は詩集『冬の赤城山』を、高橋元吉は詩集『赤城嶺』を発表しています。

草野心平は『わが青春の記』で、猪谷旅館に宿泊した際の様子の中で、酒がなくなって赤城神社のお神酒を調達したことを記しています。

12-9. 文学碑・レリーフ

覚満淵入口には、昭和天皇の歌碑があります。

新坂平から大洞に向かう「句碑めぐりの道」には、水原秋桜子、大友華亭、松野自得、富田うしお、相葉有流、須藤泰一郎などの句碑が設置されています。

鳥居峠には、東海林太郎が歌った「赤城の子守唄」（作詞：佐藤惣之助、作曲：竹岡信幸）、「名月赤城山」（作詞：矢島寵児、作曲：菊地 博）の文学碑があります。

小暮一の鳥居脇には、松尾芭蕉の文学碑があります。

大洞には、江戸幕府の追手を逃れて赤城山に隠れたとされる博徒 国定忠治のレリーフがあります。この像は、田崎草雲筆で、忠治の伝記を記した和綴紙本の小冊子『赤城録』の口絵として描かれている肖像画（縦 27.2cm、横 19.5cm）を模したものです。

12-10. 演劇

赤城山を有名にしたのは、島田正吾や辰巳柳太郎が出演した新国劇 極付『国定忠治』における「赤城の山も今宵限り・・・」の台詞です。

第 13 章. 赤城山の名前の引用

13-1. 特急あかぎ（ＪＲ東日本）

あかぎ号は、1950年3月24日、高崎経由の快速として桐生駅－上野駅間（桐生駅－高崎駅間は普通列車）として誕生し、1960年3月15日には、電車化されて前橋駅－上野駅間の準急に、さらに1966年3月5日に急行に格上げされました。

1982年11月15日より新特急に格上げされ、1986年11月1日以降、特急となり、前橋駅－上野駅間を連絡しています。

1995年12月1日より、利便性を考慮して、土・日には前橋駅－新宿駅間に特急ウィークエンドあかぎ号も走りはじめました。さらに、2014年3月15日より、全席指定席のスワローあかぎ号も運行されています。

13-2. あかぎ号（流鉄流山線）

千葉県にある小さな私鉄の総武流山電鉄（現在名は流鉄）流山線で、2001年5月20日まで走っていた1300形電車は、あかぎ号と呼ばれ、当然のことですが、車体の色は赤でした。

流山駅の一つ手前の平和台駅は、かつては赤城駅、赤城台駅でしたが、平和台団地の造成で名称変更されました。

13-3. 赤城駅（上毛電気鉄道 上毛線・東武鉄道 桐生線）

群馬県みどり市大間々町大間々にある、東武鉄道と上毛電気鉄道が共用する駅で、管理は上毛電気鉄道が行っています。

東武鉄道 桐生線の終着駅で、東武浅草駅から太田駅まで東武鉄道 伊勢崎線を通して東武鉄道 桐生線に入る、特急「りょうもう」号が始発・終着します。

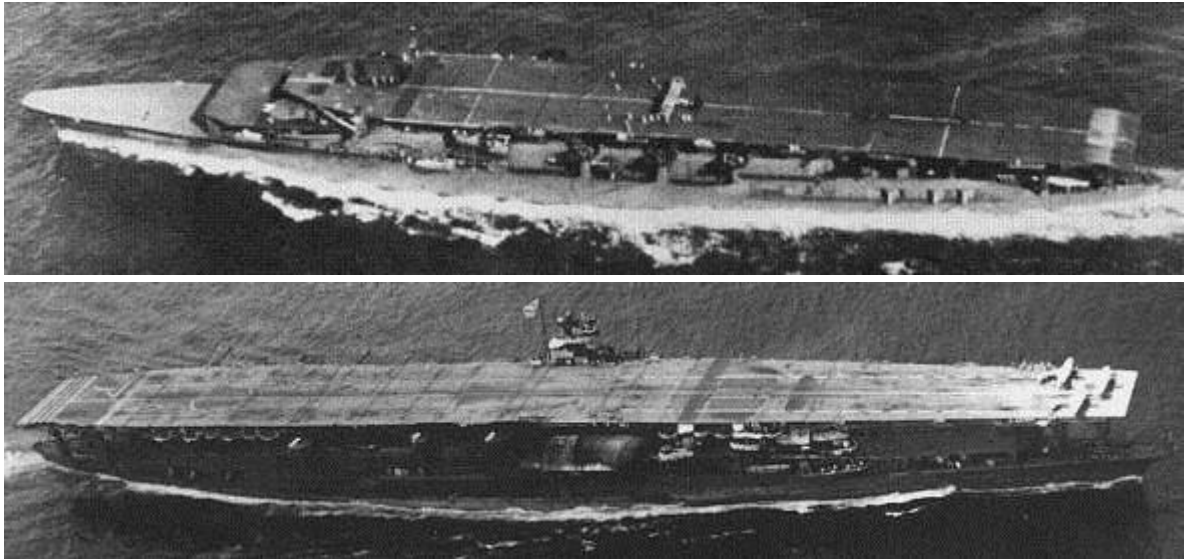
この駅は、1928年11月10日、上毛電気鉄道の新大間々駅（しんおおままえき）として開業し、1958年11月1日、赤城登山鉄道（現在は廃線）の開業にともない、赤城駅と改称されました。

13-4. 軍艦

●赤城（航空母艦）：1927年3月25日、呉工廠で竣工した、基準排水量36,500トン、公式排水量41,300トン、全長261.2m、最大幅29.0m、最大速度31ノット、航続距離16ノット・8200海里、出力133,000馬力の、当時は世界的に最大規模の航空母艦でした。

航空母艦の艦名は、空を飛ぶ伝説の動物名が原則でした。赤城は元々、88艦隊（戦艦8隻、巡洋戦艦8隻）の装甲巡洋艦（後には巡洋戦艦と呼ばれました）として建造され、命名のルールに従って山の名前が付けられました。ワシントン軍縮条約の結果、巡洋戦艦から航空母艦へと生まれ変わり、名前がそのまま引き継がれました。

第一航空艦隊兼第一航空戦隊の旗艦となりましたが、1942年6月5日、ミッドウェー海戦で、米空母エンタープライズから発艦した急降下爆撃機の爆弾が命中し、大火災を起こして航行不能になり、翌日、見方の魚雷で沈没しました。



空母赤城（上：建造時、下：改装後）

●赤城（砲艦）：赤城（砲艦）は、1890 年、小野浜造船所神戸工場で竣工した日本初の全鋼製軍艦（基準排水量 699 トン、公式排水量 914 トン、全長 56.7m、幅 8.3m、巡航速度 8.3 ノット、390 馬力）で、日清戦争や日露戦争で使われました。

1911 年 4 月 1 日に除籍となり、1912 年 3 月 22 日、川崎芳太郎氏に売却され、川崎汽船の貨物船 赤城丸に改造されました。

13-5. 巡視艇・巡視船

●あかぎ（あかぎ級巡視艇：PS40）：1965 年 3 月 24 日に竣工した海上保安庁の特務救難用の巡視艇（83 トン、全長 26.0m、最大幅 5.4m、最高速度 29.1 ノット、2,200 馬力）で、同型艇の第 1 号艇です。

●あかぎ（130 型巡視船：PS101）：1980 年 3 月 26 日竣工したあかぎ型巡視船（総トン数 188.7 トン、全長 35.0m、最大幅 6.3m、最大速度 28 ノット、4,400 馬力）の第 1 号船です。12.3mm の機関銃を搭載した、機動性を重視した小型高速巡視船で、第 3 管区海上保安部那珂湊海上保安部（常陸那珂湊港）に配備されていました。

●あかぎ（180 巡視船：PS14）：130 型巡視船あかぎの退役にともない、2009 年 3 月竣工したらいざん型巡視船（総トン数 209 トン、全長 46.0m、最大幅 7.5m、最大速度 35 ノット、9,400 馬力）の 14 号船で、20mm 機関砲を装備しています。現役中で、所属は第 3 管区茨城海洋保安本部 茨城海洋保安部（常陸那珂湊港）に配備されています。

13-6. 商業船

●赤城山（あかぎさん）丸（三井物産、貨物船）：玉造造成所で、国産初のディーゼル貨物船（4,631 トン、全長 114.3m、最大幅 15.2m、速度 12.18 ノット、1,726 馬力）として 1924 年 7 月 18 日に竣工し、北太平洋航路に就航しました。

●赤城丸（日本郵船、貨物船）：三菱重工業長崎造船所で、1935年9月10日に竣工したAクラス高速ディーゼル貨物船（7,367トン、全長141m、最大幅19m、18.9ノット、8,771馬力）で、同系統（A船）の第1船です。北ヨーロッパ航路（日本ードイツ・ハンブルグ）に就航しましたが、第2次世界大戦が始まったため、南アメリカ航路に転用されました。

1941年海軍が徴用し、同年12月10日、特設巡洋艦に改造され、1942年2月17日、米国空母バンカー・ヒルなどからなる米国第9任務部隊搭載機による直撃弾を受け、トラック島北水道付近で沈没しました。

●赤城山丸（三井物産、貨物船）：三井造船で1951年9月28日に就航し、ニューヨーク航路に就航した貨物船（16.5ノット、9,500馬力）で、初代赤城山丸にちなんで命名されました。

13-7. 赤城型民家

赤城山南麓地方に多くみられる茅葺きの民家で、2階や屋根裏を養蚕に利用するため、前面の2階中央部分を凹型に切り落とした形式をしています。

13-8. 赤城村

赤城山の西麓には、2006年2月19日まで、赤城村がありました。この村名は、1889年4月1日の町村制施行に伴って誕生した横野村と敷島村が、1956年9月1日の昭和の大合併の際、赤城山にちなんで命名されました。

2006年2月20日、平成の大合併に伴い、隣の渋川市を中核都市とし、周辺の北橋村、伊香保町、子持村、小野子村とともに対等合併し、新たな渋川市となりました。旧赤城村全域は、渋川市赤城町となりました。

地区内には、上三原田歌舞伎舞台（国重要有形文化財）、宮田の石造不動明王立像（国重要文化財）、滝沢石器時代遺跡、日本名瀑百選に選ばれている落差37mの棚下不動の滝（雄滝）などがあります。

13-9. 赤城根村

1956（昭和31）年9月29日まで赤城山北麓に赤城根村があり、30日に利根郡東村と合併して利根村となり、さらに2005（平成17）年2月13日、利根村は沼田市に編入されました。旧赤城根村地域には、赤城川が北に向かって流れ、片品川に合流しています。

13-10. お酒・食料品など

●お酒：清酒（赤城山、名峰赤城、赤城のしずく）、赤城の恵（焼酎）、赤城（ワイン）があります。

●AKG48-赤城の恵み：群馬県地域政策課が厳選し、赤城山周辺の美味なる物産として認定した飲食物です。

●赤城の恵：前橋市が認定した飲食物です。

●リンゴ：沼田地域で開発されたリンゴの品種に「あかぎ」があります。酸味が弱く甘味があり、この品種から陽光が生み出されました。

●まえばしの水（赤城の恵）：前橋市水道局が販売しているペットボトル入りの水で、前橋市金丸町の水道用井戸からくみ上げた水が使用されています。

●赤城乳業（株）：埼玉県深谷市に本社を置く氷菓（アイスクリームなど）専業メーカーで、代表的商品に「ガリガリ君」があります。1964年には「赤城しぐれ」を発売し、大ヒットしています。

13-11. 道の駅

●赤城の恵：前橋荻窪温泉あいのやまの湯に道の駅「赤城の恵」（前橋市荻窪町）があります。併設されている荻窪公園には、約 16,000 株のアジサイが植えられています。

●ふじみ：国道 353 号沿いには、富士見温泉見晴らしの湯ふれあい館に併設の道の駅「ふじみ」（前橋市富士見町石井）があり、全国の行ってみたい温泉のある道の駅の第 1 位に選ばれました。

●ぐりーんふらわー牧場・大胡：国道 353 号沿いにはさらに、道の駅「ぐりーんふらわー牧場・大胡」（前橋市滝窪町）があり、オランダ風車が特徴づけています。

●くろほね やまびこ：国道 122 号沿いには、道の駅「くろほね やまびこ」（桐生市黒保根町下田沢）があります。

●あぐりーむ昭和：関越自動車道 昭和 IC の近くの利根沼田望郷ライン沿いに、道の駅「あぐりーむ昭和」（利根郡昭和村森下）があります。

●南郷温泉：県道 62 号沿いに南郷温泉があり、併設施設は道の駅ではありませんが、ほぼ同等の設備が整っています。

13-12. 力士

●赤城山晃：藤岡市出身、時津風部屋所属の昭和時代の大相撲力士で、最高位は東十両 10 枚目でした

●栃赤城雅男：沼田市出身、春日野部屋所属の大相撲力士で、最高位は東関脇でした。

12-13. AKGIDAN（群馬のご当地アイドルグループ）

かつて AKG48 と呼ばれた群馬県発のご当地アイドルグループで、AKG は群馬を代表する赤城に由来します。また、キャッチコピーは、A「あかるく」、K「かわいく」、G「げんき

よく」です。

13-14. 赤城の輝き（バラ品種）

前橋市オリジナルのバラ品種で、2010年3月に品種決定、同年9月に登録されました。色が蕾の段階から、黄、オレンジ、赤の三段階に変わるのが特徴です。

13-15. 超速戦士 G-FIVE

アカギレッド、ハルナブルー、ミョウギイエロー、上州源龍、上州源仙の5つのキャラクターで構成されています。戦いは一切しないのが特徴です。

13-16. 国民体育大会・身体障害者スポーツ大会

1983年、群馬県において、冬季・夏季・秋季のうち、ヨット競技を除く全種目が開催された第38回国民体育大会は赤城国体の愛称と呼ばれ、キャッチフレーズは「風に向かって走ろう」でした。

また、秋季大会に続いて行われた第19回身体障害者スポーツ大会は、愛の赤城大会の愛称がつけられました。

13-17. AKAGI

Academic Knowledge Archives of Gunma Institutes（群馬県地域共同リポジトリ）の略で、群馬県内の大学等の学術研究成果および県立図書館が所蔵する郷土関係資料等の知的文化財を県内外に広く公開するものです。

第 14 章．湖・河川・用水・滝

火山の裾野は水の浸透性が高く、そのような場所はいつも水不足に悩まされます。赤城山山麓でも例外ではなく、古くから農業用水の確保に苦勞したようで、南側山麓に多数の溜池があり、その密度は讃岐平野に次いでいます。また、多くの用水が作られました。

14-1. 湖

●大沼：赤城山頂の大沼は、標高 1,341m にあるカルデラ湖です。現在の大沼は、面積 88 万 m² (88ha)、周囲約 4.5km、最大水深約 16.5m ですが、発表文献によって多少の相違がみられます。

大沼には年間約 1,000 万トンの水が流入し、ほぼ入れ替わるのに約 2 年 4 ヶ月かかるといわれています。

●小沼：標高約 1,475m にある、直径約 300m の火口湖です。

●覚満淵：古大沼湖の水位が下がって取り残された、水深約 1m の小池で、周囲は高層湿原となっています。池の底で、円形に白くなっている部分は、周囲に降った雨水が地下を浸透して湧き出しているところです。

●古大沼湖・オトギノ森湖・新坂平湖：3 万年以上前は、山頂カルデラ内全体に水が溜まって楕円形の湖がありましたが、その後の地蔵岳・小沼火山・見晴山といった中央火口丘の出現によって、古大沼湖（面積 180ha）、オトギノ森湖、新坂平湖の 3 つに分断されました。さらに、粕川、沼尾川によってカルデラ壁が破られ、オトギノ森湖、新坂平湖は消失し、古大沼湖は縮小して、大沼と覚満淵に分断されました。

14-2. 河川

●赤城川：黒檜山北西面から北に向かって流れ、沼田市利根町青木で、片品川に合流します。

●赤城白川：新坂平直下から山頂カルデラ壁を破って南西に流れ、前橋市下細井町で桃木川に合流する、赤城山では最大の河川です。比較的大きな山麓扇状地を形成し、前橋市青柳町～下細井町・北代田町にかけては、川床が周囲より高い、天井川になっている部分があります。

●沼尾川：大沼の沼尻から流出し、山頂カルデラ壁を破って西に向かって流れ、渋川市赤城町で利根川に合流します。

●粕川：小沼より流出しています。小沼火山の火口壁と山頂カルデラ壁を破って南に流出し、伊勢崎市下蓮町で広瀬川に合流します。火口壁と山頂カルデラ壁の間はオトギノ森、山頂カルデラ壁を破ったところが銚子の伽藍です。ここから滝澤不動滝までの間はガラン

沢と呼ばれ、両側が切り立った絶壁となり、小滝、錦の滝、夫婦滝、かめ割の滝、修行の滝が連続しています。冬季は氷柱や氷瀑が見られます。下流に山麓扇状地を作っています。

●荒砥川：荒山直下から南に向かって荒砥川が流れ、伊勢崎市安堀町で広瀬川に合流します。山麓扇状地を作り、一部は天井川となっています。

●片品川：沼田市利根町南郷まで南流し、90° 方向を変えて西流し、昭和村森下で利根川に合流しています。この間には、数段に及ぶ見事な河岸段丘があります。もしも赤城山がなかったら、片品川はそのまま南流を続け、伊勢崎市東部（早川の流路）を流れて利根川に合流していたことになります。

●根利川：赤城山の東麓を北流し、沼田市利根町南郷で片品川に合流します。もし赤城山がなければ、沼田市利根町根利で片品川に合流していたでしょう。

14-3. 用水

●赤城大沼用水：前橋市富士見町出身で、江戸時代末期の農学家 船津傳次平の構想を基に、1957 年に完成した、大沼の沼尻から新坂平下を通過して地獄谷に至るトンネルを掘り、赤城白川に導水している用水で、550ha を灌漑しています。この用水の完成により、富士見村（現 前橋市富士見町）では本格的な稲作ができるようになりました。

●大正用水：渋川市北橋町箱田で利根川から取水し、伊勢崎市香林町の早川に至る用水で、赤城南麓の標高 160～100m の地域を灌漑しています。

●群馬用水：利根川上流の八木沢ダム、奈良俣ダムに貯水した水を綾戸ダム（昭和村川額）から取水し、赤城山南麓と榛名山東麓を、自然流下（標高 250m 以下）とポンプアップ（標高約 450m まで）して灌漑するとともに、一部は水道水としても利用しています。

●赤城西麓農業用水：県営畑地帯総合整備事業として建設されている用水です。赤城山東麓を北流する根利川から取水し、赤城山北麓～西麓の沼田市利根町、昭和村、渋川市赤城町・北橋町、前橋市富士見町地域 1,635ha を畑地灌漑します。未完成ですが、受水している地区は野菜の大産地となりました。特に昭和村のレタス栽培は有名です。

●溜池群：赤城山南麓の水不足を解消するため、香川県讃岐平野に次ぐ密度で、多数の溜池が造られました。赤城山南麓の現存の溜池は湧水池利用のものが多く、153 個が点在し、最大の溜池は 1952 年完成の寺沢ダム（高さ 14.5m、貯水量 13.7 万 m³、有効貯水量 11.5 万 m³）です。

●女堀：赤城南麓の前橋市上泉町で取水して伊勢崎市西国定町までの約 13 km にわたる、古代末期～中世初期の未完成用水遺跡です。幅 15～20m、深さ 3～4m の掘削跡が残され、一部は 1983 年に国指定遺跡となりました。伊勢崎市下舐町では、女堀跡の整備保存の一

環として、赤堀しょうぶ園として利用されています。

14-4. 滝

●小中大滝：赤城山周辺で最大の滝で、落差 96m です。小中大滝に行く登山道にある「けさかけ橋」は、超傾斜つり橋であることが特徴です。

●棚下不動の滝：渋川市赤城町棚下にある落差 37m の滝で、溶結凝灰岩の崖を落下しています。崖の下部は未結の軽石層のため大きく空洞になり、裏側から滝を眺めることができます。ただし、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災で崖の一部が崩落したため、現在、滝の裏側に行くのは禁止されています。

●滝澤不動滝：粕川に懸かる落差 32m の滝で、溶結凝灰岩の壁を一気に流れ落ちていきます。冬季になると氷結し、大きなツララが垂れ下がります。滝澤不動尊から滝澤不動滝の間の廊下状地形は、滝澤不動滝が侵食して後退してできました。

粕川が山頂カルデラを切っている銚子の伽藍から滝澤不動滝の間はガラン沢と呼ばれ、小滝、錦の滝、夫婦滝、かめ割の滝、修行の滝などが続いています。



棚下不動の滝（雄滝）



滝澤不動滝

●乙女の滝・大猿の滝：前橋市粕川町中之沢から大猿川沿いを登るとおおさる山乃家があり、さらに登ると乙女の滝（はね滝）、大猿の滝があります。乙女の滝は、滝の半分から上が細い溝状になっていて、そこを勢いよく下った水は、滝の中央部で噴水のように跳ね上がっています。



乙女の滝（はね滝）



大猿の滝

第 15 章. 交通・インフラ

15-1. 自動車通行可能な登山道路

赤城山頂への自動車道路は 3 本あり、前橋方面からの県道 4 号（前橋赤城線）は「赤城白樺ライン」、南面を登る県道 16 号（大胡赤城線）は「サンダーボルト・ライン」、北面から登る県道 251 号（沼田赤城線）は「北面道路」の愛称で呼ばれています。

このうち、県道 16 号と 251 号は冬季閉鎖となり、1 月～3 月間は、赤城山頂へのアクセス可能な道路は県道 4 号の 1 本だけとなります。



赤城山頂へのルート

15-2. 赤城山への登山バス

●急行バス：土日祝日には、関越交通バスが、前橋駅－赤城山ビジターセンター間の急行バスを 3 本運行しています。このバスには、「ようこそ 赤城山へ」の言葉と、黒檜山、レンゲツツジの花、小暮一の鳥居、ぐんまちゃんがラッピングされ、案内の際は、前橋市出身の作曲家 井上武士の「チューリップ」が流れます。6 月～10 月の土日祝日の第 1 便には、赤城自然塾のメンバーがボランティアで、ガイドを行っています。



急行バス（前橋駅－赤城ビジターセンター間）のラッピング

●一般路線バス：前橋駅－富士見温泉間は日本中央バスが運行し、そこで関越交通バスに乗り換えて、赤城山頂に行くこともできます。

15-3. 国道 353 号

国道 353 号（柏崎市～みどり市）は東国文化歴史街道の愛称と呼ばれ、赤城山南面道路ともいわれています。前橋市富士見町（当時は富士見村）では、この道路が作られた昭和初期には開拓道路と呼んでいました。

前橋市柏倉町～三夜沢町間で国道 353 号が蛇行しているのは、赤城山南面の山体崩壊のデブリが堆積しているからです。さらに、一部で道路が U 字型に急カーブを描くのは、小河川によって作られた谷を越えるためです。

前橋市嶺町の嶺公園付近の国道 353 号を時速 40km で東進すると、道路の舗装面に刻んだ細かい溝から発せられる音が、井上武士作曲のチューリップのメロディーとなります。このような道路構造をメロディーロードといいます。

なお、国道 353 号は、群馬県中之条町四万温泉と新潟県湯沢町三国の間は未開通です。

15-4. 関越自動車道

関越自動車道（練馬 IC～長岡 JC）は、渋川伊香保 IC から沼田 IC 間は赤城山の西麓を走っています。この間には、インターチェンジが 2 ヶ所（赤城 IC、昭和 IC）、サービスエリアが 1 ヶ所（赤城高原 SA）、パーキングエリアが 1 ヶ所（赤城 PA）、長さ 500m 以上の橋が 3 本、トンネルが 1 本あります。永井川橋は、関越自動車道の路線中で橋梁高が最も高い橋です。

15-5. その他の道路

県道 4 号・県道 70 号（大間々上白井線、旧称・大間々子持線）は「上毛三山パノラマ街道」の愛称があります。

上毛電気鉄道大胡駅から三夜沢赤城神社間の道路は赤城南面風ライン、赤城神社から渋川市赤城町溝呂木間の農免道路は、第二赤城南面道路と呼ばれています。

15-6. 旧街道

●沼田街道：赤城山西麓には、厩橋（前橋）と沼田を結ぶ沼田街道があり、江戸時代は交易だけでなく、沼田藩の大名行列に利用されました。前橋街道や清水越往還、利根川東通りなどとも呼ばれました。現在もルートの手ほとんどを辿ることができ、米野（こめの）、溝呂木（みぞろぎ）、南雲、森下では宿場の面影を見ることができます。

●根利道：銅山街道の黒保根から分かれ、小出屋（こでや）峠を越えて大原で会津（沼田）街道と一度交わり、さらに金精峠を越えて日光東照宮に至る日光裏街道です。

●銅山街道（あかがねかいどう）：会津街道のさらに東側には、渡良瀬川に沿って、足尾の銅を運んだ銅山街道が走っていました。

●大胡道：日光例幣使街道の柴宿から分かれ、大胡を通って、神梅で銅山街道に至る街道で、日光東照宮参りのための裏街道の一つでした。



赤城山周辺の旧街道

15-7. 赤城山山頂の峠

自動車道が整備される以前は、山麓から徒歩で赤城山に登り、山頂カルデラの峠を越えて大洞に至りました。代表的な峠には次のものがあります。

●前橋道：前橋市（富士見町）方面から赤城白川沿いに箕輪、一杯清水を経て、新坂平（新坂峠）を越えた。一杯清水からテンヤ坂を通して軽井沢峠に至るルートもあった。

- 渋川道：渋川市（渋川：溝呂木）方面から桜沢沿いに桜沢の大ゾロを経て、姥子峠を越えた。大洞に至るには、さらに新坂平を越えた。
- 敷島道：渋川市（赤城町：敷島）方面から溝呂木を通り、六道辻を経て桑柄峠を越えた。大洞に至るには、さらに新坂峠または出張峠を越えた。前橋道の箕輪から六道辻に行く道もあった。
- 深山道：渋川市（赤城町）方面から深山を通り、出張越（峠）を越えた。
- 沼田道：沼田市（沼田）・昭和村方面から船ヶ鼻（山）を経て野坂峠を越えた。
- 二本檜道・根利道：沼田市（利根町：追貝・根利）方面から古五輪峠・新五輪峠を越えた。
- 水沼道：桐生市（黒保根町）から、利平茶屋を経て鳥居峠を越えた。
- 梨木道：桐生市（新里町）から梨木を通り、茶の木畑峠を越えた。大洞に至るには、さらに八丁峠を越えた。
- 湯ノ沢道：前橋市（大胡地区）から、忠治温泉を経て、牛石峠を越えた。大洞に至るには、さらに八丁峠を越えた。
- 三夜沢道：前橋市（大胡地区）から三夜沢を経て、軽井沢峠を越えた。大洞に至るには、さらに八丁峠を越えた。

15-8. 鉄道路線

● JR 東日本路線（上越線・両毛線）：赤城山西麓の利根川に沿って上越線（高崎駅～宮内駅）が走っています。津久田駅と岩本駅間の津久田トンネルは、赤城山から流れ下った棚下火砕流の溶結凝灰岩を掘削したものです。

赤城山南麓には両毛線（新前橋駅～小山駅）が走っています。両毛線が前橋駅～桐生駅間を最短距離で結ばず、伊勢崎駅を通っているのは、伊勢崎の物産を運ぶためだけでなく、途中の前橋市城南地区に赤城山の山体崩壊の堆積物があって傾斜がきついため、蒸気機関車ではパワー不足で迂回させたとの説もあります。

● 上毛電気鉄道 上毛線：赤城山南麓、中央前橋駅と西桐生駅間は、私鉄の上毛電気鉄道 上毛線（通称 上電）が結んでいます。この鉄道の車両は東急井の頭線を走っていた電車を譲り受けたもので、混雑時を除くと自転車を持ち込むことができます。また、荒砥川を渡る荒砥川橋は、国の有形登録文化財に登録されています。

上毛電気鉄道が所有している「デハ 101 号」は、1928 年制作の日本一古い現役電車で、マスコット車両として大胡駅に大切にメンテナンスされており、今でもイベント運行や貸

切運行が行われています。設備拠点の大胡駅は、開業当時の駅舎や車庫がそのまま残っており、国の登録有形文化財に登録されています。

赤城駅には東武鉄道 桐生線（太田駅～赤城駅）が乗り入れており、浅草駅から特急「りょうもう号」が直通運転しています。

●渡良瀬溪谷鐵道：かつて、足尾の銅を輸送するために敷設された鉄道路線で、銅輸送が終了した後も国鉄足尾線として運行されていました。しかし、JR 東日本への移行時に第 3 セクターの運営となりました。赤城山東麓の桐生駅と間藤（まとう）駅間を、渡良瀬川に沿って結び、通称は「わ鐵」です。あえて旧漢字を使ったのは、鉄は金を失うと書くからだそうです。

15-9. JR 東日本送電線

赤城山の西麓を通り、前橋市富士見町時沢で県道 4 号と交差する送電線（15.4 万ボルト）は、小千谷市にある JR 東日本の信濃川発電所（小千谷、新小千谷千手の 3 発電所を一括。総出力は約 45 万 kW）から首都圏に電力を送る送電線です。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の際に電力不足になっても、首都圏の JR 線で電車が走れたのは、この送電線から電力が送られたためです。

15-10. 東群馬変電所

「東群馬変電所」（沼田市利根町根利）は、1999 年に完成した 50 万ボルト変電所です。東京電力は、関東圏を取り囲む 50 万ボルトの基幹送電線の外側に 100 万ボルト設計の基幹送電線系統の建設をすすめ、新潟と福島で発電した電力を首都圏に送る拠点変電所の役割を担うことになっています。当面は 50 万ボルトで運用し、将来的には設備を拡充し、世界初の 100 万ボルト変電所として運用する予定となっています。

この変電所に入出する送電線は、西群馬開閉所へと続く東群馬幹線（50 万ボルト）、南いわき開閉所へと続く（50 万ボルト）で、この 2 線は 100 万ボルト用に設計されています。さらに、新新田変電所へと続く J パワーの新赤城線（50 万ボルト）と奥只見発電所へと続く奥只見線（27.5 万ボルト）が接続しています。

東群馬変電所は、所在地が赤城山の北東側標高約 1,100m で、50 万ボルト変電所としては日本で一番標高の高いところに位置しています。

15-11. ダム

●綾戸（あやど）ダム：沼田市岩本町で利根川を堰き止める、東京電力所有の発電用重力式コンクリートダム（堤頂高 14.5m、堤頂長 118.6m）で、左岸で取水した水は佐久発電所に送られます。また、群馬用水は右岸で取水しています。

●菌原（そのはら）ダム：沼田市利根町穴原で片品川を堰き止める、国土交通省関東地方整備局が管理する特定多目的（洪水調節、不特定利水、発電）の重力式コンクリートダム（堤高 76.5m、堤頂長 127.6m）で、利根川水系 8 ダムのうち 3 番目のダムとして、1965 年に完成しました。ダム湖は「菌原湖」と呼ばれます。

●平出（ひらいで）ダム：沼田市白沢町平出で片品川を堰き止める、群馬県企業局所有の発電用重力式コンクリートダム（堤高 40.0m、堤頂長 87.0m）で、ダム湖は「みさと湖」と呼ばれています。完成は 1964 年です。

●真壁（まかべ）ダム：渋川市北橋町真壁にある重力式コンクリートダム（堤高 20.1m、堤頂長 535.6m）で、赤城山西麓の傾斜地に佐久発電所用の調整池（真壁調整池、真壁湖）を作るために建設されました。堤高は低い幅が広いのが特徴で、綾戸ダムで取水した水を湛水し、発電量に応じて佐久発電所へ送水しています。

●寺沢（てらざわ）ダム：前橋市滝窪町にあり、寺沢川を堰き止めるアース式ダム（堤高 15.5m、堤頂長 140m）で、農業用水確保のために 1952 年に造られました。天端を国道 353 号が通っているため、ダムと気づきにくいです。

●早川ダム：みどり市大間々町桐原にあり、早川を堰き止めるアース式ダム（堤高 26.0m、堤頂長 241.8m）で、灌漑用水用に 1941 年に造られました。早川の他に、上流の深沢川、利根川（群馬用水）から取水しています。上流側からはロックフィルダムのように見えます。

15-12. 水力発電所

●佐久発電所：渋川市北橋町分郷八崎に位置する東京電力の水力発電所（認可最大出力 76,800kW）で、運転開始は 1～3 号機（利根川の綾戸ダム、沼尾川から利水）が 1928 年、4 号機（吾妻川の渋川発電所から利水）が 1938 年です。完成当時は東洋一の水力発電所とされました。最初の所有者が関東水力であったことから、関水（かんすい）とも呼ばれます。

放流された水は大正用水、広桃用水、天狗岩用水ととして農業に利用されています。さらに、広桃用水は群馬県企業局所有の田口発電所、関根発電所、小出發電所、柳原発電所、東京所有の前橋発電所、日本カーリット所有の広桃発電所、天狗岩用水は群馬県企業局所有の天狗岩発電所が利水しています。

発電所にそびえ立つ巨大なサージタンクは近隣のランドマークで、真壁調整池から発電所に至る水圧鉄管の回りには桜が多数植えられ、桜の名所になっています。

●渋川発電所：渋川市阿久津にある東京電力所有の発電所（認可最大出力 6,800kW）で、金井発電所から利水し、放流した水は佐久発電所（または吾妻川）に送られます。運転開始は 1925 年です。

●根利川発電所：沼田市利根町日影南郷にあ東京電力所有の発電所（認可最大出力 1,000kW）で、根利川と赤城沢から取水し、片品川へ放流します。運用開始は 1920 年です。

●上久屋発電所：沼田市上久屋町にある東京電力所有の発電所（認可最大出力 19,000kW）で、片品川・薄根川・白沢川から利水し、片品川へ放流します。放流水は、伏田発電所が

利用しています。運用開始は 1925 年です。

●伏田発電所：昭和村川額にある東京電力所有の発電所（認可最大出力 13,000kW）で、運用開始は 1926 年です。東京電力 上久屋発電所（沼田市上久屋町）の放流水を利水し、利根川に放流します。

●白沢発電所：沼田市上久屋町にある群馬県企業局の発電所（認可最大出力 26,600kW）で、菌原ダムから利水しています。運転開始は 1964 年です。放流水は平出ダムを経て、利南発電所・新利南発電所で利水されます。

●利南発電所・新利南発電所：沼田市上久屋町にある群馬県企業局所有の発電所で、運用開始は利南発電所（認可最大出力 5,500kW）が 1964 年、新利南発電所（認可最大出力 1,000kW）が 2011 年で、いずれも平出ダムから取水し、片品川に放流します。

●綾戸発電所：昭和村川額にある東京電力所有の発電所で、綾戸ダム～渋川市北橘町箱田間の利根川の水量維持のために作られた、綾戸ダムに設置された低落差の発電所（認可最大出力 670kW）で、運用開始は 1998 年です。

●岩本発電所：沼田市岩本町にある東京電力所有の発電所（認可最大出力 28,400kW）で、利根川、赤谷川から利水し、利根川に放流しています。運用開始は 1949 年です。

●田沢発電所：桐生市黒保根町上田沢にある群馬県企業局が 32 箇所目の水力発電所（認可最大出力 2,000kW）で、運転開始は 2016 年 5 月 28 日です。小黒川から取水しています。

●小坂子発電所：前橋市小坂子町にあり、群馬県企業局が設置した県央第二水道水を利用した発電所（最大出力 110kW）で、運転開始は 2008 年 2 月 22 日です。

●赤城沢小水力発電所：沼田市利根町根利にあり、㈱アドバンスが設置した小水力発電所（最大出力 44.3kW）で、赤城沢から取水しています。運転開始は 2017 年 5 月 8 日で、群馬県では、民間設置の水力発電所の第 1 号です。

●利平茶屋小水力発電所：桐生市黒保根町下田沢にあり、林野庁と東京電力との協力で設置された小水力発電所（最大出力 22kW）で、鳥居川の治山堰堤を利用して取水しています。運転開始は 2004 年 4 月で、桐生市が会入りしています。

第 16 章. 民謡・歌

16-1. 民謡

●上州馬子唄：「赤城時雨れて沼田は雨よ・・・」の歌詞で始まる上州馬子唄は、馬子唄としては日本屈指のものとされています。

●上州麦打ち唄：「赤城山から谷底みれば 瓜（うり）や茄子（なす）の花盛り」の歌詞があります。

●上州小唄：「赤城山から風が吹きだして 風でチョウチョが飛ばされる・・・」は、作詞 西条八十・野口雨情、作曲 中山晋平の新民謡で、終りの歌詞からギッチョン節とも言われています。

16-2. 童謡

●チューリップ：「咲いた 咲いた チューリップの花が・・・」の童謡は、前橋市出身の井上武士が作曲しました。この曲は、JR 前橋駅の発車合図として使われ、駅前に歌碑があります。前橋市嶺町の国道 353 号を時速 40km で自動車東進すると、チューリップのメロディーが聞こえます。

また、土日祝日に運行される、前橋駅～赤城山ビジターセンター間の急行バス車内での案内間にも、このメロディーが流されます。

●海：「海は広いな 大きいな・・・」の童謡は、沼田市出身の林 柳波（はやしりゅうは）が作詞しました。

●兎と亀・他：みどり市花輪出身の石原和三郎が作詞しました。

16-3. 歌謡曲

題名に赤城が入っている歌謡曲に、

『赤城の子守歌』東海林太郎 作詞：佐藤惣之助 作曲：竹岡信幸

『名月赤城山』東海林太郎 作詞：矢島寵児 作曲：菊地博

『さらば赤城よ』東海林太郎 作詞：石田喜代夫 作曲：利根一郎

『赤城かりがね』東海林太郎 作詞：高橋 掬太郎 作曲：利根 一郎

『赤城しぐれ』霧島 昇 作詞：久保田宵二 作曲：竹岡信幸 編曲：奥山貞吉

『赤城山』島津亜矢 作詞：野本 高平 作曲：村沢 良介

『赤城の浅太郎』織田祐輔 作詞：田村富一 作曲：伊王野葉 編曲：池多孝春

があります。なお、赤城の子守歌は松竹映画《浅太郎赤城の山》の主題歌で、その歌詞には赤城の文言はありません

歌詞に赤城が入っている代表的な歌謡曲に、女国定 作詞：山崎 正 作曲：山口俊郎（『赤城の山のふきおろし』の歌詞を含む）があります。

16-4. 浪曲

『赤城の山も今宵限り、可愛い子分のでめえたちとも別れ別れになる門出だ・ ・ ・ ・』
の台詞がある浪曲「天保水滸伝」は、玉川勝太郎の十八番でした。

第 17 章. 赤城山の見え方・赤城山からの展望

17-1. 麓から赤城山の見え方

- 前橋市街から：鈴ヶ岳、鍋割山、荒山、長七郎山（黒檜山、地藏岳は見えません）、つつじが峯
- 渋川・吉岡市街から：鈴ヶ岳、黒檜山、地藏岳、荒山、鍋割山
- 沼田・みなかみ市街から：黒檜山、地藏岳、鈴ヶ岳、荒山
- 桐生・太田市街から：鍋割山、荒山、地藏岳、長七郎山、駒ヶ岳、黒檜山
- 伊勢崎市街から：鍋割山、荒山、地藏岳、長七郎山、黒檜山



群馬県内各地から見た赤城山

17-2. 赤城山からの展望

- ★富士山：南南西
- ★スカイツリー：南南東
- ★男体山：北東
- ★筑波山：東

17-3. 距離

- ★群馬県庁から赤城山（黒檜山：荒山に隠れて直接見えません）：約 22km
- ★東京都心から赤城山：約 110km
- ★赤城山（黒檜山）から見た水平線までの距離：約 150km（空気の屈折を考慮すると約 160km）で、伊豆大島、伊豆半島先端まで見えることになります。

17-4. 仰角・俯角

★群馬県庁 32 階展望ルーム（地上高 127m、海拔 242m）から赤城山（荒山、標高 1,571m が対象）：約 4.2 度の角度で見上げます（県庁展望ルームから黒檜山と地藏岳は荒山に隠れて見えません）。

★赤城山（黒檜山）から富士山（標高 3,776m、水平距離約 140km）を見たとき、仰角約 0.80 度です。

★赤城山から浅間山（標高 2,568m、水平距離約 65km）を見たとき、仰角約 0.67 度です。

★赤城山から男体山（標高 2,486m、水平距離約 35km）を見たとき、仰角約 1.05 度です。

★赤城山からスカイツリー（地上高 634m、水平距離約 110km）は、約 0.2 度、東京タワー（地上高 333m、水平距離約 115km）は約 0.75 度の俯角です。

17-5. 遠望

黒檜山頂からの遠望は、真北から時計回りに、至仏山、平ヶ岳、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、日光白根山、女峰山、男体山、錫ヶ岳、宿堂坊山、皇海山、庚申山、袈裟丸山、根本山、鳴神山、筑波山、（関東平野）、高尾山、丹沢山、武甲山、雲取山、富士山、大菩薩嶺、両神山、甲武信ヶ岳、地藏岳、金峰山、南アルプス（北岳、仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳）、八ヶ岳連峰（赤岳、蓼科山）、御嶽山、乗鞍岳、荒船山、妙義山、霧ヶ峰、浅間山、北アルプス（奥穂高岳、槍ヶ岳、鹿島槍ヶ岳、五竜岳）、四阿山、妙高山、本白根山、白根山、横手山、岩菅山、白砂山、苗場山、平標山、仙ノ倉山、谷川岳、巻機山、大水上山、越後三山、武尊山、笠ヶ岳です。

17-6. 黒檜山から赤城のピークの見え方

北方向から時計回りに、小黒檜山、駒ヶ岳、小地藏岳、長七郎山、地藏岳、荒山、鍋割山、鍬柄山、鈴ヶ岳、薬師岳

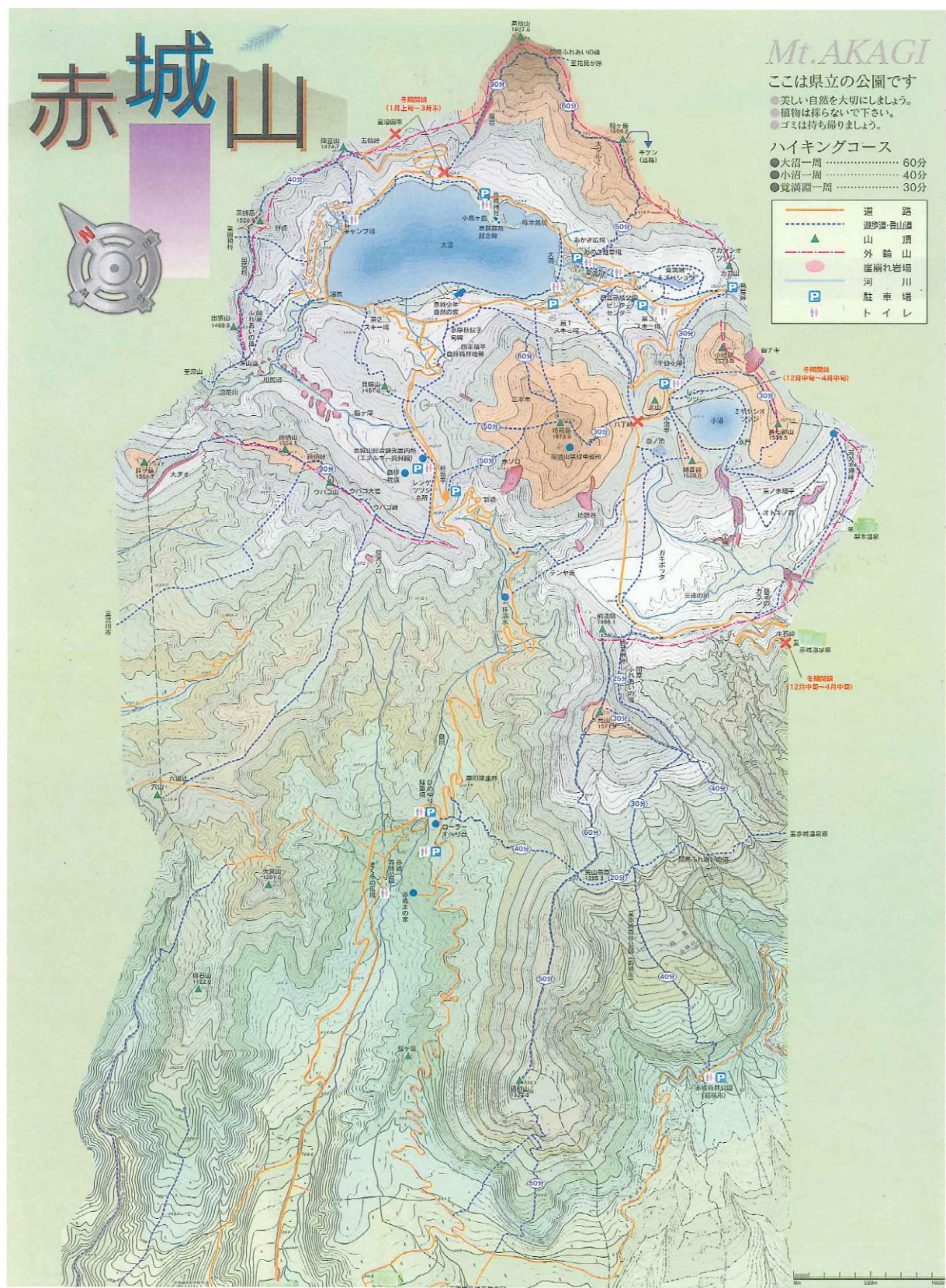
17-7. 地藏岳から赤城のピークの見え方

北方向から時計回りに、薬師岳、小黒檜山、黒檜山、駒ヶ岳、小地藏岳、長七郎山、荒山、鍋割山、鍬柄山、鈴ヶ岳

17-8. 大洞赤城神社から赤城のピークの見え方

北方向から時計回りに、黒檜山、駒ヶ岳、小地藏岳、地藏岳、鈴ヶ岳、出張山、薬師岳、陣笠山

付録 1 : 赤城山地図



[illegible]

付録3. ガイド推薦コース

●ガイド推奨コース

※ガイド所要時間は一般のコースタイム（単位：分）の1.5倍強になります。

コースNo.1 陣笠山・薬師岳・出張山 (3時間)

- ビジターセンター (5) 赤城広場 (10) 赤城神社 (10) 五輪峠への分岐 (黒檜山登山口) (20) 五輪峠 (15) 陣笠山 (25) 薬師岳 (25) 出張峠 (10) 出張山 (20) 厚生団地 (15) 五輪峠への分岐 (黒檜山登山口) (10) 赤城神社 (10) 赤城広場 (5) ビジターセンター

- 眼下に大沼1340.7mの眺望を楽しみながらのアップダウンが楽しいコース
- トウゴクミツバツツジ、ヤマツツジ、レンゲツツジのツツジが多いコース
- 紅葉の季節も最高です
- 南向きの日当たりの良いコースなので暑い時期は避けたい
- 陣笠山からの眺望が良い

中級コースNo.2 黒檜山・駒ヶ岳 (3時間45分)

- ビジターセンター (5) 赤城広場 (10) 赤城神社 (10) 登山口 (30) 黒岩 (60) 黒檜山頂 (5) 展望台 (5) 黒檜山頂 (5) 赤城大神 (45) 駒ヶ岳 (15) 鉄梯子 (30) 駒ヶ岳登山口 (5) ビジターセンター

- (登山向け)
- 岩あり、緩急尾根ありの登山コース
- 疲れた下りに揺り棒等の助けをしやすいので、右回りがお勧めです
- ツツジが多いコース

中級コースNo.3 鉄柄山・鈴ヶ岳 (2時間30分)

- 新坂平駐車場 (新坂平に出てすぐ右手) (50) 鈴ヶ岳、鉄柄峠を経て鉄柄山 (20) 深山への分岐 (30) 鈴ヶ岳 (20) 深山への分岐 (30) 合計 (2時間30分) 鉄柄峠、鈴ヶ岳を経て新坂平駐車場

- レンゲツツジ、ヤマツツジの頃がおすすめ
- 紅葉の頃も良い
- 鈴ヶ岳山頂へは急な登りとなる
- 野暮とした風通しの悪いコースなので暑い時期は避けたい
- 鉄柄山から新坂平1,430mの眺望が良い

コースNo.5 地蔵岳 (2時間30分)

- ビジターセンター (10) 黒岩峠 (30) 小沼 (10) 八丁峠 (30) 地蔵岳 (20) 八丁峠 (30) 黒岩峠 (20) 寛瀬湖経由ビジターセンター

- 赤城山の核心部が見渡せる点で優れているコース
- ツツジの季節
- 紅葉の季節

- 寛瀬湖百合駐車場1023m
- 荒山1572m
- 南尾根
- 鹿岩
- 展望の広場1344.5m
- あずまや1423m
- 棚上十字路1243.8m
- 鍋割山1332.3m

中級コースNo.8 鍋割山・荒山 (5時間15分)

- 寛瀬湖百合駐車場 (40) 荒山高原 (60) 鍋割山 (45) 荒山高原 (55) 荒山 (45) 南尾根 (10) 鹿岩 (5) 東屋 (15) 棚上十字路 (10) 荒山高原 (30) 寛瀬湖百合駐車場

- 赤城山の南面に広がる二つの寄生火山、鍋割山、荒山を巡る
- 鍋割山からの関東平野の眺めは格別
- ツツジが多いコース
- 鍋割山山頂からは、富士山、南アルプス、八ヶ岳、浅間山、四阿山、横手山、草津白根山等一帯でできます
- 空気が澄んだ日には東京スカイツリー634mも望めます
- 荒山高原から荒山へ登り出していくと左側にアカヤシオの大群落

コースNo.9 小沼・荒山 (3時間35分)

- ビジターセンター (10) 黒岩峠 (30) 小沼 (10) 八丁峠 (30) 軽井沢峠への分岐 (30) 東屋 (10) 南尾根鹿岩 (20) 荒山 (45) 荒山高原 (30) 寛瀬湖百合駐車場

- 全体的には緩やかな下りのコースですが、荒山の急登もあり、変化に富んでいます
- トウゴクミツバツツジ、ヤマツツジの季節がおすすめ
- 紅葉の季節も良い
- 鹿岩からは地蔵岳1,674m、深い谷を隔てて長七郎山1,579mが望めます

H27.11.1 NPO 法人赤城自然塾主催

コースNo.4 寛瀬湖周辺 (40分)

- 寛瀬湖周辺 (40)
- 古赤城湖の名残りの奥瀬湖
- 栄量の少ない土壌には食虫植物のモウセンゴケが見られます
- 笹の繁茂と笹刈、鹿の食害と保護ネットなどの環境保護活動を行っています

- 荒波山、桐生から足尾の山並みが開けます
- H27.10 寛瀬湖への眺望を改善しました
- 長七郎山の山裾
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

コースNo.6 小沼周辺 (2時間)

- ビジターセンター (10) 黒岩峠 (30) 小沼 (30) 一岡 (20) 黒岩峠 (30) 寛瀬湖経由ビジターセンター

- 比較的アップダウンの少ないコース
- ツツジの時期がおすすめです
- シロヤシオ、少し遅れてサラサドウダンの群落は圧巻

コースNo.7 長七郎山 (2時間40分)

- ビジターセンター (10) 黒岩峠 (30) 小沼 (40) 長七郎山 (30) 長七郎山の山裾 (30) 黒岩峠 (20) 寛瀬湖経由ビジターセンター

- 変化に富んだコースです
- ツツジの時期にぜひ来て欲しいコース
- 葉・雨の眺望が良い



表紙写真： 黒檜山（赤城山最高峰：1,828m）中腹の猫岩から見た地蔵岳（右）、小地蔵岳（左）と大沼

裏表紙写真： 赤城山の山頂カルデラと中央火口丘